

2022 No.58

会報

公益社団法人 福島県診療放射線技師会



会 告

定款第14条に基づき下記の定時総会を開催いたします。

記

第11回（令和4年度）

公益社団法人 福島県診療放射線技師会定時総会

書面表決書提出締切：令和4年5月26日（木）必着

総 会 日 時：令和4年5月28日（土）午後2時

新型コロナウイルス感染拡大の収束が未だ見えない中、会員皆様の安全確保及び感染拡大防止の観点から、昨年同様、書面表決での定時総会とさせていただきます。

つきましては、別紙の総会資料をお読みの上、お手数ですが令和4年5月26日（木）必着で、書面表決書をご提出ください。

定時総会へのご意見等がありましたら、各協議会や理事までお知らせください。直接、県HPへメールしていただいても構いません。なお、一般公開講演や各表彰も中止といたします。会員皆様のご理解を宜しくお願いいたします。

結果については、各理事や県HPや福放技ニュースにてお知らせいたします。

ご理解とご協力の程お願い申し上げます。

以 上

目 次

会 告

目 次

巻頭言	新里 昌一
-----------	-------

表 彰

令和3年度受賞者名簿

瑞宝双光章表彰を受けて	遊佐 烈	3
遊佐 烈氏 略歴		4
瑞宝双光章 叙勲おめでとうございます	新里 昌一	5
瑞宝双光章表彰を受けて	平井 和子	6
平井和子氏 略歴		7
瑞宝双光章 叙勲おめでとうございます	新里 昌一	8
永年勤続50年表彰を受けて	齋藤 康雄	9
永年勤続50年表彰を受けて	吉田 豊	10
永年勤続50年表彰を受けて	富塚 光夫	11
永年勤続30年表彰を受けて	高野 基信	12
永年勤続30年表彰を受けて	阿部 智	13
永年勤続30年表彰を受けて	遠山 和幸	14
永年勤続30年表彰を受けて	村上 光幸	15
永年勤続30年表彰を受けて	森下 克彦	16
永年勤続20年表彰を受けて	安部 努	17
永年勤続20年表彰を受けて	遠藤 怜子	18
永年勤続20年表彰を受けて	関根 康孝	19
永年勤続20年表彰を受けて	佐藤 秀樹	20
永年勤続20年表彰を受けて	佐藤 泰章	21
学術奨励賞・論文賞を受賞して	村松 駿	22
論文賞を受賞して	小室 敦司	23

学 術

令和3年度（公社）福島県診療放射線技師会学術大会		24
学術大会を終えて	松井 大樹	25

委員会活動報告

精度管理委員会	森谷 辰裕	26
調査委員会	佐藤 佳晴	27
学術委員会	松井 大樹	28
広報編集委員会	鍵谷 勝	30
ネットワーク委員会	石森 光一	31
生涯教育委員会	堀江 常満	32
放射線管理士部会	佐久間守雄	33
災害対策委員会	菅野 修一	34

分科会・研究会報告

消化器撮影分科会	下山田 明	35
乳腺画像分科会	本田 清子	36
放射線治療分科会	加藤 貴弘	37
MRI分科会	清野 真也	38
CT分科会	村上 克彦	39

各地区協議会報告

会津地区協議会	鈴木 雅博	40
県南地区協議会	鍵谷 勝	42
県北地区協議会	池田 正光	43
浜通り地区協議会	名城 敦	44

本部報告

令和3年度 第10回総会議事録	45
令和3年度 第1回理事会議事録	46
令和3年度 第2回理事会議事録	47
令和3年度 第3回理事会議事録	50
令和3年度 第4回理事会議事録	53
令和3年度 第5回理事会議事録	55
令和3年度 会務報告	59
令和3年度 役員名簿	61
令和3年度 委員会名簿	61
令和3年度 新入会・再入会会員名簿	64
令和3年度 名誉会員名簿	65
令和3年度 会員異動名簿	66
新人・新入会員紹介	68
お詫びとお知らせ	71
賛助会員名簿	73

広 告

編集後記

All You Need Is Love



福島県診療放射線技師会 会長 新里 昌一

大好きなスターバックスが、2021年8月に太田西ノ内病院近くに新店舗を出し市内5店舗になりました。県立福島医大附属病院の入り口に店舗があるのは、とても羨ましいです。そのスターバックスの元CEOの岩田松雄さんが、著書の中でこう書いています。『今までの学校の勉強でも会社でも、良い点をとれば数字だけ挙げればよかった。「人を押しつけてでも結果を出す人」が、評価される傾向にありました。しかし、これからは「人と助け合って役割を果たせる人」の重要性が高まっています。』

私も共感しました、病院とか技師会でも同じだと考えます。特に今はチーム医療なので、違う職種の方との連携が大事になってきます。技師長でも県会長でも、色々と違う個性ある人達を纏めて行かなくてはなりません。

今回の題名は、ジョン・レノンが作ったビートルズの名曲の1つです。人間が人間を殺し合う戦争や紛争のない、愛のある世界を目指しています。曲の冒頭は、フランス国歌ラ・マスセーズが挿入されています。2016年のパリ同時多発テロの悲しい出来事は、もはや日本でも他人事ではなくなりました。

宇宙で唯一と言っていい素晴らしい惑星の地球で、同じ人間で人種・宗教や貧富の差で争いが絶えないのか。同じ過ちを何度も繰り返す事の愚かさ、生まれて来ただけでも奇跡なのにと考えてしまいます。

何故、戦争がなくなるのか？それは、軍事産業マーケットの巨大消費＝戦争で、儲ける人間＝死の商人が存在するからです。政府や財界では、日本も世界に武器が輸出できるように考えています。また、戦前教育を進める戦争の亡霊とも思える存在もあります。

アメリカのトランプ大統領の誕生は、ヨーロッパの移民に対して排他的な団体を活気づけさせました。ヨーロッパでも中東情勢の悪化による難民流出で危険性が高まっています。民族の対立が過激になると、民族主義＝極右（ネオナチ）勢力が力をつけて来ます。混沌とする世界ですが、戦争の火種が消えるためには排他ではなく融和が大事だと考えています。また、エルサレムを首都とする一連の発現も、中東に新たな紛争を巻き起こす火種となりました。

また、もう1つの火種は朝鮮半島にもあります。南北首脳会談やアメリカとの会談後は伸展がありません。北朝鮮の様な個人崇拜、全体主義の恐怖政治には明日はありません。中国も一党独裁で、Googleで天安門事件を検察できない非民主主義国家です。英国から返還させた香港の問題でも、自由の大切さがどうなるのか心配です。勿論、台湾への侵略も心配です。

この歌やイマジンの歌詞のように、人の自由が守られる平和な世界を望んでいます。

令和3年度受賞者名簿

●叙勲 瑞宝双光章（令和3年度）

遊佐 烈 福島県立医科大学附属病院 平井 和子 保原中央クリニック

●公益社団法人日本診療放射線技師会 永年勤続（50年）

《県北地区》

齋藤 康雄 大原総合病院 吉田 豊

《県南地区》

富塚 光夫 たむら市民病院

●公益社団法人日本診療放射線技師会 永年勤続（30年）

《県北地区》

高野 基信 福島県立医科大学附属病院 阿部 智 大原総合病院

《会津地区》

遠山 和幸 福島県立南会津病院

《浜通地区》

村上 光幸 いわき市医療センター 森下 克彦 なこそ病院

●公益社団法人福島県診療放射線技師会 永年勤続（20年）

《県北地区》

安部 努 柊記念病院 小池 沙織 北福島医療センター

《県南地区》

遠藤 怜子 太田西ノ内病院 関根 康孝 太田総合病院附属太田熱海病院
佐藤 秀樹 塙厚生病院 佐藤 泰章 脳神経疾患研究所附属総合南東北病院

●令和3年度学術奨励賞

① 学術奨励賞・論文賞

大原総合病院 村松 駿

② 論文賞

白河厚生総合病院 小室 敦司

瑞宝双光章表彰を受けて

公立大学法人福島県立医科大学附属病院

遊佐 烈

コロナ禍の最中に瑞宝双光章を頂きました。大学病院出身という事で文部科学省管轄となり受賞伝達の連絡とともに、令和3年6月9日に公立大学法人福島県立医科大学附属病院の病院長室にて勲章と勲記を鈴木弘行病院長より頂きました。出席者全員がマスクをし、式次第といっても一人だけなので、記念写真を撮って頂き、終了致しました。

昭和52年東北大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科を卒業し、実家のある福島で就職することになり、短大の先生の勧めもあり、福島県立医科大学附属病院にお世話になりました。

これまでの技師生活を振り返ると、多数の諸先輩方にお世話になりましたが、特に私達夫婦の仲間も快く引き受けて下さった伊藤陸郎様、CTにおける勉強、研究活動、徹夜の実験も一緒にして下さい、福島県放射線技師会理事、日本放射線技術学会理事、研究会代表理事等に推挙して下さい、片倉俊彦様、そして前技師長で公私ともに大変お世話になった故鈴木憲二様、公益法人になる時に一緒に苦勞してきた齋藤康雄様、現在の公益社団法人福島県診療放射線技師会を牽引されている新里会長はじめ役員の方々に心より御礼申し上げます。

今回の叙勲申請に関しては福島県立医科大学との連絡をして頂きました公立大学法人福島県立医科大学附属病院放射線部阿部郁明技師長には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

平成22年10月16日に妻が病で亡くなり、失望の中で、何も考えられず、何も手につかない状態でしたが、平成23年3月11日に突如として東日本大震災が起きました。その時は公立大学法人福島県立医科大学附属病院放射線部の技師長として勤務しておりました。この時職場の皆が放射線技師として何をすべきかを自ら考えて行動してくれました。

空中線量測定、避難者の被ばく線量測定、病院来院者表面汚染検査、飛来物質の核種同定、病室

における線量測定、ホールボディーカウンターによる内部被ばく線量測定、各種マニュアル作成、ドクターヘリの汚染検査、すぎのご園児童の甲状腺線量測定等々を皆が一丸となって働く姿を見て、職場の長としてとても誇らしく思えました。

そんな中、社団法人福島県放射線技師会会長として我々の先頭に立ち、震災における被災者支援の激務に就かれていた鈴木憲二様が急逝され、愕然としてしまいました。鈴木会長が東日本大震災の現状を報告するはずであったいくつかの講演は私が代行させて頂きました。福島県の現状を知って頂けたことは非常に重要であったと思います。しかし県からの依頼で南会津や、福島市からの依頼による出前講座をさせて頂き、放射能や放射線について講演させて頂きました。しかし懐疑的になっておられる方が多く、同じ福島県民であっても、放射線防護に対しては考え方に大きな隔たりを感じ、私自身が多くを考えさせられた時もありました。

平成25年11月にコラッセ福島で開催された第3回東北放射線医療技術学術大会において、大会長に就任し、成功裏に終了できたのも公立大学法人福島県立医科大学附属病院放射線部の皆様による多大なる力と、公益社団法人福島県診療放射線技師会の皆様、更に実行委員長を引き受けて下さった北福島医療センターの丹治一様と北福島医療センターの皆様方によるものと心より感謝申し上げます。

私は本当に大勢の皆様方のお力添えでここまで診療放射線技師を続ける事ができました。

この間、とても大事な2人の人を失いました。今回の叙勲を2人もきっと喜んでくれたと思いますが、言葉を交わすことも、顔を見ることも出来ないのが非常に残念であり淋しい限りです。

公益社団法人福島県診療放射線技師会は郡山市に事務所を構え、これからも福島県民の医療向上のために邁進するものと確信しております。会のご発展と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

遊佐 烈氏 略歴

学歴等

昭和52年3月7日 東北大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科卒業
昭和52年11月24日 診療放射線技師免許取得（厚生省第16339号）

職歴等

昭和52年12月1日 福島県立医科大学附属病院
平成18年4月1日 公立大学法人福島県立医科大学附属病院
平成27年3月31日 定年退職
平成27年4月1日 公立大学法人福島県立医科大学附属病院再任用
令和2年4月1日 公立大学法人福島県立医科大学附属病院非常勤

団体歴

平成15年4月1日 社団法人日本放射線技術学会東北部会理事
平成17年4月1日 社団法人福島県放射線技師会理事
平成21年4月1日 社団法人福島県放射線技師会副会長
平成24年4月1日 公益社団法人福島県診療放射線技師会理事
公益社団法人福島県診療放射線技師会副会長
平成25年4月1日 公益社団法人日本放射線技術学会東北支部副部会長

表彰歴

平成9年5月10日 社団法人福島県放射線技師会会長表彰（永年勤続20年）
平成19年11月21日 福島県知事表彰（永年勤続30年功労）
平成20年7月10日 社団法人日本放射線技師会会長表彰（永年勤続30年）
平成27年10月31日 公益社団法人日本放射線技術学会東北支部長表彰（功労）
平成29年6月2日 厚生労働大臣表彰
令和3年4月29日 叙勲 瑞宝双光章受賞

瑞宝双光章 叙勲おめでとうございます

福島県診療放射線技師会

会長 新里 昌一

遊佐烈様、令和3年度春の瑞宝双光章の叙勲おめでとうございます。

遊佐さんは、福島県立医科大学附属病院に長年勤務され、放射線部技師長としてご活躍されました。昨年度まで大学附属病院で非常勤として勤務をされておりました。

遊佐さんとは、CTビギナーズセミナー開催から良くお会いしていたと記憶しています。CTの基礎からファントム作成まで、本当に親切に教えていただきました。鈴木元会長が他界されて齋藤副会長が急遽会長に就任した時は、副会長として齋藤会長を力強く支えていました。東日本大震災の際には、鈴木会長が行う予定であった講演を遊佐さんが替わって南会津等で行っていただきました。

その後、私に齋藤会長から副会長になって欲しいと言われ、遊佐さんと共に副会長に名前を連ねました。齋藤さんが会長を降りる際、私としてはどう考えても会長職には遊佐さんが適任だと思われましたが、不肖の私に会長職を譲り、今でも陰から支えていただいております。会長として私がいるのは、遊佐さんが事務局長として陰ながらご尽力していただいた賜物です。私の母が他界した際は、県理事会を問題なく運営・進行していただきました。

第3回東北放射線医療技術学術大会では大会長として、特に原発事故後で県民やマスコミからも

非常に関心が高かった大会を成功に導きました。また、(公社)日本放射線技術学会東北支部副会長も歴任されました。

プライベートでは、とても優しくおらかな方で何方からも好かれる方です。何度かご自宅にもお邪魔させていただきましたが、可愛い猫たちがおり動物好きでもあり、ハレーダビットソンのバイクにも乗られるダンディーな方でもあります。福放技ニュース第139号の巻頭言「小さな命」等は、怪我したタヌキへの対応について遊佐さんの優しさを物語っているとエピソードの一つです。

今まで大勢の先輩や後輩のため、知事表彰や叙勲に対しての素晴らしい推薦状の作成を担っていただきました。資料を集めて文章作成や県庁等への交渉と大変ご尽力いただいております。そんな遊佐さんご自身が叙勲する事はとても大きな喜びです。

今回の叙勲は、遊佐さんやご家族はもとより県技師会としても、本当に名誉な事であり、長年の病院勤務を通じて地域医療・保健衛生活動への社会貢献が認められた事になります。遊佐さんには、今後もお身体をご自愛されまして、私を含めた後輩へのご指導ご鞭撻を受け賜われますように宜しく願いいたします。

簡単ではありますが、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

瑞宝双光章表彰を受けて

公益財団法人仁泉会 保原中央クリニック

平井 和子

この度、公益社団法人福島県診療放射線技師会のご推薦により、令和3年春の瑞宝双光章授与の栄誉に浴し、身に余る光栄と恐縮いたしております。

1981年3月、弘前大学医療技術短期大学部卒業と同時に、総合保原中央病院（現 北福島医療センター）に入職し、2020年3月に定年退職、4月より嘱託職員として再任用され、現在に至っております。

公益社団法人福島県診療放射線技師会副会長や県北地区協議会委員長、乳腺画像分科会代表世話人などを担当させていただき、様々な経験を重ねることができました。

入職当初、県内の女性技師は私の他に3人勤務されていたと記憶しています。完全に男性社会であった放射線技師の世界で苦勞も多かったように思いますが、逆に気を遣っていただいたことも多く、あまり嫌な思い出などは記憶に残っておりません。

私の技師活動として、マンモグラフィを抜きにして語ることはできません。当院の理事長が産婦人科医ということもあり、早くからマンモグラフィ装置が導入され、当時は撮影技術の書籍などを参考にしながら、手探りで検査を進めていたように思います。

最初は、片面乳剤フィルムと片面スクリーンをポリエチレン製の袋に入れ真空パックする方式のグリッドなしの装置を使用していたと記憶しています。その後、一般的なアナログのシステムを導入しましたので、かなり早い時期からマンモグラフィ撮影に取り組んでいたことが分かります。そのようなマンモグラフィ黎明期に、いち早く様々な研修に出していただき、より良い画像を撮ることに意欲を燃やしておりました。毎月のように参加していた東京での研修会で、マンモグラフィ技術指導の先駆者である堀田勝平さん（愛知県がんセンター）の存在を知るようになり、堀田

さんの下で研修させていただく機会を得ることができました。そこから私の技師人生が変わったと言っても過言ではありません。

その後、間もなくNPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会（現 NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構）によるマンモグラフィ撮影技師認定制度が始まり、程なく認定を取得し、県内や東北地区の地域指導員として講習会に携わるようになりました。2006年には、精中機構の技術委員となり、各地での技術講習会、更新講習会等に携わり、現在も継続しております。

2000年3月に厚生省（現 厚生労働省）が「MMGによる乳がん検診を実施する」と指針を出したことで、認定制度が始まったのですが、その年4月には県技師会として乳房撮影分科会（現 乳腺画像研究会）を発足させ、代表世話人に就任いたしました。当時の片倉会長は、マンモグラフィの技術向上に深い理解を示して下さり、会長のご尽力の下、早い時期から県内でマンモ講習会を何度も開催させていただき、多くの認定者を輩出することができました。

現在は県内の女性技師も増加し、マンモグラフィ撮影は女性技師が担当できる環境になってきていることを大変嬉しく思っておりますが、一番大事なことは、良い画像を提供するというので、日々、自己研鑽を重ねていただきたいと思います。

この度の受賞にあたり、新里会長始め、県技師会の理事の方々にご推薦いただきましたことに感謝申し上げます。特に遊佐事務局長には、申請書類のご準備等、たいへんお世話になりました。

私は、第一線を退きましたが、65歳まで精中機構の技術委員を拝命しておりますので、今後もマンモグラフィ技術向上のため、微力ながら活動をして参りたいと思っております。

平井和子氏 略歴

学歴等

昭和56年3月23日 弘前大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科卒業
昭和52年11月24日 診療放射線技師免許取得（厚生省第20365号）

職歴等

昭和56年3月21日 医療法人好仁会保原中央病院
昭和59年4月1日 財団法人仁泉会医学研究所保原中央病院
昭和61年4月1日 財団法人仁泉会医学研究所総合保原中央病院
平成14年3月31日 財団法人仁泉会医学研究所北福島医療センター
平成23年8月1日 公益財団法人仁泉会北福島医療センター
令和2年3月31日 定年退職
令和2年4月1日 公益財団法人仁泉会梁川病院嘱託職員として再雇用

団体歴

平成11年5月29日 福島県放射線技師会女性班設立 班長
平成12年4月1日 日本放射線技術学会マンモグラフィ講習会地域指導員
平成12年5月13日 福島県放射線技師会乳房撮影分科会代表世話人
平成18年4月1日 NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
教育・研修委員会 技術委員
平成23年4月1日 社団法人福島県放射線技師会県北支部副支部長
平成23年5月21日 社団法人福島県放射線技師会理事
平成24年4月1日 公益社団法人日本放射線技術学会撮影部会委員会マンモグラフィ技術委員
社団法人福島県放射線技師会乳房画像分科会代表世話人
平成25年4月1日 NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構 教育・研修委員会
マンモグラフィ技術委員
平成26年4月1日 福島県生活習慣病検診等管理指導協議会「乳がん部会」オブザーバー
平成25年4月1日 公益社団法人福島県診療放射線技師会理事
公益社団法人福島県診療放射線技師会県北地区協議会委員長
平成27年5月23日 公益社団法人福島県診療放射線技師会副会長

表彰歴

平成3年4月12日 財団法人仁泉会医学研究所永年勤続表彰（永年勤続10年）
平成13年5月12日 福島放射線技師会会長表彰（永年勤続20年）
平成18年4月14日 財団法人仁泉会医学研究所永年勤続表彰（永年勤続25年）
令和2年5月3日 福島県知事表彰（保健衛生功労）
令和3年4月29日 叙勲 瑞宝双光章受賞

瑞宝双光章 叙勲おめでとうございます

福島県診療放射線技師会

会長 新里 昌一

平井和子様、令和3年度春の瑞宝双光章の叙勲おめでとうございます。

平井さんは、北福島医療センターで長年勤務され、県内では珍しく女性の管理職としてご活躍されました。また乳腺画像研究会の代表世話人としても長年務められ、県内の数多くの女性技師を含めてご指導され育成してきました。その会で1度だけ講演を行いました、とても丁寧に対応していただいた事を覚えています。昔の技師会や放射線部門は男社会でしたので、色々ご苦労も絶えなかったと存じます。県内のマンモグラフィ普及に関しては、平井さんの行った数々の功績があつてこそと思っております。

平井さんは、今まで県女性班を設立して班長、技術学会マンモグラフィ講習会地域指導員、県北支部副支部長等を歴任して県技師会理事に就任しました。広報編集委員会を担当し、真面目でしっかり責任を持って活動してくれました。また、副会長への就任の際には、齋藤監事と一緒に福島市で直接お会いしてお願いをして快くお受けいただきました。副会長としては、不甲斐ない会長の

相談にも嫌な顔せず、とてもきめ細やかな配慮を持って支えていただき感謝いたします。

今後は平井さんの後を継いで女性の理事が増え、その後に副会長や更には会長も出て来て欲しいと思います。男性目線だけではなく女性の感性が入れば、また違った視点からの運営が可能になるのではないのでしょうか。山形県では女性の会長が就任しましたが、平井さんはその先駆けのような存在でした。久々に今野英麻呂さんの叙勲お祝いでお会いしましたが、やはり何時までもチャーミングで素敵な方です。

今回の叙勲は、平井さんやご家族はもとより県技師会としても、本当に名誉な事であります。長年の病院勤務を通じて地域医療・保健衛生活動への社会貢献が認められた事になります。平井さんには、今後もお身体をご自愛されまして、私を含めた後輩へのご指導ご鞭撻を受け賜わりますように宜しくお願いいたします。

簡単ではありますが、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

永年勤続50年表彰を受けて

一般財団法人 大原記念財団 大原総合病院

齋藤 康雄

診療放射線技師を生業として50年が過ぎた。長いようで短かった半世紀であった。これまで多くの方々に支えていただきここまで来られた。衷心より感謝申し上げたい。

思えば、技師になるきっかけになったのは、高校2年の体育の時間に、鉄棒に前頭部を強打して、骨折と脳挫傷で意識不明になり30日間入院して、病院にはレントゲン撮影をする職業があることを知った時だ。卒業を前にして先生に相談したところ、東京に夜間の養成所もあることを知った。家庭の事情もあり夜間であれば行けると思い受験し、昭和43年4月に中央エックス線技師養成所に入学した。

上京し、足立区の綾瀬病院に就職した。技師の助手と雑用をしながら、その後小さな病院を転々として、昭和45年10月に卒業、秋の国家試験に合格した。当時は筆記試験で、春・秋の年2回あった。翌年の秋に父が胃がんになったので急遽帰郷することになり、10月に矢吹町の会田病院に入職した。

昭和26年に診療エックス線技師法が制定された後、昭和43年5月に改正され、高エネルギーの放射線を取り扱うことができる診療放射線技師法が制定されて、名称も診療エックス線技師及び診療放射線技師法になった。

今、技師法の一部改正に伴う告示研修が進められているが、当時の移行には連続7日間の厚生大臣指定講習終了と、再度の国家試験が義務づけられた。私は、昭和48年1月に東京医科大学での講習の後、仙台市の国立仙台病院で再度の国家試験を受験し、運良く合格した。その後、昭和58年に名称が診療放射線技師に一本化された。その後も何度か一部改正が行われている。医療環境の変化や技師会の働きかけなどで、診療放射線技師の資格も実情に見合うように業務範囲が拡大し、業務内容も高度化している。

話を戻すと、助手をしていた頃はバット現象を教えられた。その後タンク現象を経験し、福島に戻り会田病院で初めて自動現像機を使ったが、アメリカのDUPON社製で管理には苦勞した。日本語の取説がなく、業者も対処がわからないことも多々あった。自動現像機の処理時間も6分、3分半から90秒と進化し、今はCRからFPDへと進化して、業務の質と効率が格段に改善された。当時からすれば夢のようである。

会田病院から泉崎国保診療所に転職し、村立病院（当時）の創設にも関わったが、自宅から遠方であったこともあり、昭和53年4月に坪井病院に転職した。しばらくして、当時放射線技師の業務

としている施設はあまりなかった超音波検査にも従事させて貰った。医師と共に取り組んだこともあったが、検査と読影・診断が同時進行で、検査報告書を作成する等やり甲斐があった。臨床画像の読み方と知見は、以後の放射線業務にも大いに役立った。

昭和58年山村技師長が県技師会長に就任時に理事に推されて以来、40年近くいろいろな職務を担当し、お陰様で人脈もできた。昭和60年に発行した創立35年記念誌の編纂では、技師法の制定や技師会創立当時役員だった大先輩から原稿をいただき、その活動と尽力に感銘した。学術委員長の時には定期総会と学術発表を分離し、第一回福島県放射線技師学術大会を企画したが、会場のユラックス熱海で機器展示やN T Tをお願いして画像通信の実演を行うことになり、担当者に相談したところ電源の容量不足が判明し、急遽発電機をレンタルすることで対応するなど、学術委員の方々には無理難題を解決していただき、絶大な尽力のお陰で盛会裡に終了する事ができた。

東日本大震災では、東京電力福島第一原子力発電所が被災し、放射性物質が飛散したため避難住民の放射能汚染スクリーニングを技師会も担当することになった。その対応で当時の鈴木憲二会長が奔走し尽力されたが、一段落した7月にその心労もあり急逝され、遊佐副会長と二人で会長の職務を代行することになった。余りにも突然のことで引継もできなく、暗中模索で戸惑いも多々あったが、皆さんの協力で何とか凌ぐことができた。その後の一期二年間会長職に就いたが、公益社団法人への移行とも重なり県技師会にとっても激動の4年間で、理事の皆様には大変なご苦勞をお掛けした。平成30年秋、図らずも技師会の推薦で叙勲を受章したことで、家族には今までやってきたことの集大成を伝えることができた。ありがたく光榮に思っている。知事公館での伝達式、皇居へ参内し今上天皇による最期の叙勲として拝謁を賜ったことも、かけがえのない思い出になった。

この原稿を依頼されて、忘れかけていた頃の記憶を掘り起こす機会となった。「仕事は楽しく、遊びはまじめに」をモットーに歩んできた50余年であった。仕事は、楽しくなければ続かないし、遊びはまじめに遊ばないと面白くない。定年退職後は、縁があって大原総合病院で撮影業務に従事させて貰っているが、若い人達は飲み込みが早いし手際も良く羨ましい。特に整形外科の撮影は、経験も少なく知識も浅いこともあって思うように行かない時は、情けなさに苦笑いしてしまうこともあるこの頃である。

永年勤続50年表彰を受けて

吉田 豊

この度（公）日本診療放射線技師会から永年勤続50年表彰を頂き紙面を借りて御礼申し上げます。推薦戴きました県技師会、新里会長始め関係者の皆さんに厚く御礼申し上げます。

思えば昭和45年にJA福島厚生連、白河厚生総合病院の勤務から約50年の間、技師業務を続けて参りましたが数々の出来事が思い出されます。最初の転勤は昭和48年南相馬市の鹿島厚生病院でした。近くの松川浦での釣りが懐かしいです。昭和61年に会津坂下厚生総合病院へ転勤、単身赴任で馬刺しのうまさに負けて飲みすぎてしまった思い出があります。県技師会関係では長い間支部役員をさせて頂きました。活動を共にされた役員の方々には感謝申し上げます。平成20年に定年退職した後は県保健衛生協会で集検業務のお手伝いや地元開業医で技師業務をさせて頂きました。近年は地域ボランティア活動等をして過ごしております。

50年を振り返り印象的な思い出とし昭和48年10月にスペイン・マドリードで開催された第5回ISRRTに参加出来た事です。日放技主催で国際会議出席・欧州視察旅行イベントに当時の馬場県技師会長・磐城共立病院の高橋さんと共に約3週間のツアーでした。マドリードで1週間滞在。講演・研究発表は英語他でしたが予稿集を翻訳して調べていたので概ね理解できました。残り2週間は欧州数か国の関連施設の見学、ドイツ・レムシャイドの「レントゲン博物館」他「マダム・キュリー研究所」、「シーメンス工場」「フィリップスショールーム」「英国の放射線技師学校」他の訪問もあり若い頃だったので全てが新鮮でした。

県技師会の「放射線治療分科会」の活動報告を嬉しく拝見しております。自分も関わっているので少し話したいと思います。昔は「治療」と言えば「深部X線治療」「コバルト60」等で一般医療機関では無縁でした。リニアックなど加速器・・・放射線治療装置が普及し始めると情報を取得したいと思い「日本放射線技術学会」「同秋季大会」の治療分科会に参加しました。当時の治療分科会執行部の阪大・愛知がんセンター他の治療担当者から必要な情報提供を受け準備に入った経過があります。東北では宮城・青森等で線量計校正・装置の精度管理など施設間で行われている様でした。本県にも必要性を感じ福島医大放射線科・同治療部門及び県内治療施設の技師各位に協力を頂き何とか「福島県治療分科会」の礎を築く事が出来て安心しました。今では懐かしい思い出です。

三重県の白子（鈴鹿医療科学大学）で臨床実習指導者講習会を受講した事も有りました。全国からの合宿でした。その時のルームメイトとは今も交流があります。

白河は大田原市の「国際医療福祉大学」が地理的に近いせいか臨床実習指定病院依頼があり数名の学生を預かる事になりました。

最近、診療放射線技師養成機関が本県にも誕生し嬉しく思います。テレビドラマ等の影響か志願者も増えつつあるとか。昔の話ですが技師不足に伴い都内の技師学校を求人を訪ね歩いた事が嘘みたいです。

会員の皆さん方には法令改正等による講習会などでご負担も増えるでしょうが益々のご健闘を祈ると共に（公）福島県診療放射線技師会のご発展をご祈念申し上げます。

永年勤続50年表彰を受けて

一般社団法人田村医師会 たむら市民病院

富塚 光夫

昨年11月日本診療放射線技師会学術大会の折、永年勤続50年表彰を受賞致しました。

事前に日放技より表彰式への出欠の案内がありましたが、コロナ禍中でもあり欠席致しました。

12月宅配便にて表彰状、造幣局製純銀の記念メダルが送られてきました。

昭和45年診療エックス線技師免許取得。東京都足立区の柳沼病院に入職。技師は私一人。内科、外科、整形で病棟は30床。一般撮影、X線透視のみ。透視装置はフリリップ社製のIIが付いていた。フィルムはタンク現像。急患が入れば至急現像の要請。濡れたフィルムをバットに入れ外来に運びました。午後は内視鏡（胃カメラ）検査助手をしていた。2年後に自動現像機導入。しかし現在柳沼病院はありません。

昭和49年帰郷し太田総合病院に入職し太田熱海病院勤務となる。勿論、自現機はありました。太田熱海病は核医学検査も行っておりRI検査も経験出来ました。この年、診療放射線技師の資格取得。2年後太田総合病院（本院と言っていた）に転勤。本院での血管撮影はロールフィルムを使用しカッターで大角サイズにカット。（AOTはその後に導入）また、手作りDSA作成、単純撮影フィルムを反転コピー、血管造影フィルムに貼り合わせコピーすれば出来上がり。骨を消去。放射線治療も経験させて頂きました。当時はコバルト60 2門照射です。佐々木先生、村松先輩にご指導頂きました。

昭和55年当時福島医大に導入されていたCT EMI5005と同機種を導入し担当を任された。放射線科医佐藤先生と共に数年間5005を使用。当時はコンピューター室があり、筐体が4本、磁気テープに画像保存、室温23℃くらい？磁気テープの保管が大変でした。

平成元年現在の太田西ノ内病院が完成し異動となる。当初外来は800人/日との予測でした。いざオープンしてみると外来が1,400人、多い時で1,600人。放射線部だけではなく病院全体が人手不足で患者様には待ち時間が長くなって大変ご迷惑をかけました。当時は放射線技師不足で、募集しても応募する技師は少数でした。外来患者さん終了後、病棟の検査をするので19時くらいまで走り回っていました。スタッフ室では技師が机に脚を挙げて疲れだー。これが数ヶ月続きました。忘れられない。その後平成10～15年頃にかけてCR、PACS、電カル導入と電子化、デジタル化が加速します。

平成5年福島県放射線技師会の社団法人化一周年記念事業に技師会のシンボルマークの募集があり応募、最優秀作品として伊藤陸郎会長より表彰された。現在もこのシンボルマークは使用されており会員として大変名誉なことと感じている。

平成25年、定年を4年延長後退職。予てより声を掛けられていた田村市の大方病院に勤務。大方院長も高齢であったため、病院存続を模索していたが田村市からお声が掛かり、たむら市民病院として診療継続することになり田村市は星総合病院を指定管理者に選定しました。全ての大方病院職員は星総合病院の職員に採用された。老耄のアナログ技師も採用されました。

現在、星総合病院放射線科の皆様を支えられ勤務を継続しています。

50年に亘り支えていただきました関係者の皆様へ感謝致します。

永年勤続30年表彰を受けて

公立大学法人福島県立医科大学附属病院

高野 基信

この度は、永年勤続30年表彰をいただきまして誠にありがとうございます。診療放射線技師として働いた30年は、充実していたせいもあるとは思いますが、あっという間に過ぎたという感想です。

私は、平成2年に福島県に採用され、大熊町にあった県立大野病院に配属されました。初めて出勤した日、もう一人保健所から転勤してきた人がいることを知りました。大野病院には一般撮影2台、マンモグラフィー、ポータブル、X線透視、X線CT、アンギオ、術中イメージの8台の装置があり、それを4人の放射線技師で担当していました。4人のうち2人が不慣れ、しかも自分は全くの新人ということもあり、早く仕事を覚えなければと必死になっていました。当時はX線フィルムの時代でしたので、濃度が適正になるように自分で撮影条件を設定しなければならずとても苦勞しました。体厚を測り条件を調整し撮影していましたが、自動現像機からフィルムが出てくるまでドキドキして待っていたのを覚えています。

就職して4年が過ぎた平成6年、福島県立医科大学附属病院に転勤になりました。一般撮影、アンギオと1年ずつ経験させていただき、その後CT部門に配属になりました。業務にも慣れ2年が経つ頃でしょうか、マルチスライスCTが登場しその速さに衝撃を受けました。装置立ち上げの際は先輩や同僚たちと最適な撮影条件を見出すため、連日遅くまでデータを取り検討していたことを思い出します。臨床も軌道に乗ってきたので、学会に演題を出したいと思いCT画像の評価を始めました。次から次と発生する膨大なデータの解析に手作業の限界を感じ、必要に迫られプログラムの勉強をすることになりました。先輩に聞きながら、そして本やインターネットで調べながらプログラムを組んでいきました。作成に何十時間かかったかはよく覚えていませんが、なんとか完成することができました。プログラムを作成することで何百枚もあるCT画像の測定をあっという間

に終わらせることができるので、これからの画質評価には絶対に必要になるツールだと感じました。

そして40歳を過ぎたころ、CT部門から放射線治療部門へ移動することになりました。20年近く診断に携わってききましたので、放射線治療に移動した当初は、画像を扱う機会が減ったことに何となく寂しさを感じていたような気がします。放射線治療の患者数は意外と多く、2台のリニアックで朝から夕方までひっきりなしに照射をしていました。全国の大きな施設では徐々にIMRTが始まり、当院でも準備をしなければと考えていたころ、以前から病院にお願いしていた医学物理士を採用していただけることになりました。我々の施設もIMRT開始に向け、医学物理士を中心に少しずつ準備を進めていき、そして平成25年、待望のIMRTを始めることができました。

30年を振り返ってみましたが、アナログフィルムからのデジタル化、マルチスライスCT、高精度放射線治療など我々を取り巻く装置や撮影技術、治療技術の進歩は目覚ましいものでした。日ごろから学会や研究会には参加するよう心がけていますが、今後も継続しこの進歩についていけるよう努力したいと考えています。

今年度から福島県に診療放射線技師の養成学校ができました。福島県立医大ということもあり今後学生とは実習などで深く係わることになると思います。私が先輩からご指導いただいたように、診療放射線技師を目指す若者に微力ながらご協力できればと思っています。

最後になりますが、30年間診療放射線技師として仕事を続けられたのも、ご指導をいただきました先輩をはじめ出会った皆様の支えがあったおかげだと心から感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。これからも日々精進してまいりますので、引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

永年勤続30年表彰を受けて

一般財団法人大原記念財団 大原総合病院

阿部 智

この度、日本診療放射線技師会から「永年勤続30年表彰」を受けました。心より感謝申し上げます。これもひとえに、厳しくご指導して下さいました先輩方をはじめ、私と一緒に勤務して頂いたスタッフの皆さんのおかげです。ありがとうございます。

私が大原病院に入職して、30年が過ぎた訳ですが新人の頃は同系列の病院に、こんなにも長く勤められるとは、思ってもみませんでした。ここで少し過去を振り返ってみたいと思います。ただし視点をちょっと変えて、実は2年前テレビで見た「君の隣をたべたい」(50過ぎの、おじさんが人生初涙したアニメです。)のヒロインが気になるセリフを言っていました。そのセリフとは、「人は皆、様々な選択をしながら生きている。」です。要約すると、皆さん現在の職場のスタッフが集まって撮影業務をしていること、技師会を会員で運営していること、これらは運命や偶然に人が集まっていることではなく、個人個人がこれまでの人生の中で、色々な選択をした結果であると言うことです。と言う訳で私自身、今までどの様な選択をしてきたか振り返ります。

「高校3年時、就職活動で県外の求人票を見て、ある病院の放射線助手学生募集の求人を見つける。その病院の就職試験を受ける事を、選んだ。」普通の製造業に就職しようと思っていたが、大きく進路が変わった瞬間でした。

「専門学校を受験をすることを、選んだ。」城西放射線技術専門学校に入学しました。

「4年間卒業まで、仕事と勉強を辞めないことを選んだ。」当たり前のことですね。

「福島県(大原総合病院)に就職することを、選んだ。」今でも少し、3年位東京で仕事をしていたら、どうなっていたかと思う時があります。

「技師会に入会することを、選んだ。」「各種勉強会、技術学会等に参加することを、選んだ。」独学で勉強することは、あまり得意ではないので、技

師会は絶対に入会して良かったと思っています。就職して3年目、附属の大原医療センターに異動になる「心カテ、頭部アンギオ、MRI撮影業務をすることを、選んだ。」大原医療センターは開院して2年8ヶ月で、アンギオはフィルム撮影がメインで、MRIは0.5Tの装置でした。

「県北技師会(当時)の役員を勧められる。引き受けることを、選んだ。」そして決して忘れられないことが、「東日本大震災が発生、患者搬送することを、選んだ。」脚が震えながらの搬送作業でした。「県北地区協議会の役員を辞めることを、選んだ。」「大原病院に勤務異動を命ぜられた。異動することを、選んだ。」20年ぶりの本院復帰でした。「後輩から仕事を習うことを、選んだ。」撮影機器が変わっていて、浦島太郎状態でした。

「新病院への引越し搬送作業を手伝うことを、選んだ。」元旦早朝の患者搬送で、病院からの朝日は眩しかった、この出来事も忘れられません。

「手術室より、放射線部へ外科用イメージ操作の依頼要請あり。引き受けることを、選んだ。」そして今回、日本診療放射線技師会から技師免許アップデート要請が、「告示研修を受けることを、選んだ。」

20代の頃人生は、運命や偶然によって、成り立っていると思っていました。しかし選択すると言う視点で、顧みると色々な選択をしながら仕事をして生活してきたなと思いました。断ると言う選択肢もあったわけで、その時はどうなっていたか少し気になります。

最後になりますが、撮影業務のデジタル化が急速に進んだ現在、今までの仕事の常識を見つめ直し、若者に負けないよう力を発揮していきたいと思っています。未筆ながら私の「永年勤続30年表彰」の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

永年勤続30年表彰を受けて

福島県立南会津病院

遠山 和幸

この度は日本放射線技師会より永年勤続30年表彰を賜りまして誠にありがとうございます。これまで出会ってきた方々の支えやご指導があり、今の自分があると思っています。

平成2年に福島県職員として、採用され当時は、9病院1診療所運営されていて、どこに赴任になるのか緊張していました。ところが、内示は会津若松保健所。学校でも保健所業務は学習した覚えがなく、本当に診療放射線技師として採用されたのか疑問に思いました。やめるわけにも行かず不安だらけで職場に向かいました。その不安は的中し、主な仕事は書類の山のデスクワーク。放射線業務は、胸部バス健診、三か月児股関節撮影（当時は全員撮影）、健康診断の胸部撮影だけでした。無我夢中で、1年が経とうとした時、会津坂下保健所への異動の内示が出て、また行政業務かと落ち込みました。

会津坂下保健所では、さらに驚く現状が待ち受けていました。現像機が無く、すべて手現像でした。間接ロールフィルムは全暗での作業だったので出来上がるまで毎回緊張しました。このまま行政業務が続くのかなと思っていた矢先、平成6年に喜多方病院への異動の内示を受けました。

今思えば、行政の業務を経験できたことは、視野が広まり、さまざまな視点から物事を判断できるようになり、現在の業務に大変役立ちました。

喜多方病院では、技師は3名と小規模な病院でしたが、病院業務が出来ることを大変うれしく思いました。しかし、4年間のブランクは大きく、一般撮影の胸部以外は撮影経験がなく、基礎からの勉強となりました。初めてのことばかりで何も

できず、同級生たちには置いて行かれた気持ちになりました。必死に一般撮影、CT撮影の経験を積み、名物のラーメン巡りをして、充実した楽しい7年間となりました。

平成13年に、県立病院では一番大規模な会津総合病院に異動になりました。新たに心カテやMRIなども習得でき、常勤の放射線科医師に、厳しく指導も受け、自分がレベルアップしていくのが実感でき楽しかったです。職員も多かったため昼夜を問わず交流を持つことができ充実していた職場でした。しかし、東日本大震災が発生し、状況が一変しました。放射線科は、一般業務を行いながら、放射線スクリーニングを行う毎日となり、目まぐるしい日々を過ごしました。会津総合病院では、様々な貴重な経験をさせていただき、成長できた13年間だったと思います。

平成25年に現在の職場である南会津病院に異動となりました。前病院とは違い規模は小さく家族的な職場であり親しみやすいところです。しかし、南会津医療圏は神奈川県と同面積もあり広大で、医療圏で唯一の病院でもあるので、救急は断らない方針です。毎日、地域医療のため邁進しています。

現在、県立の施設は4病院1診療所とはなりましたが、福島県職員として、奉仕者の気持ちを忘れず、さらなる研鑽を重ね業務に反映させていきたいと思っています。今後ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。また、診療放射線技師会の益々のご発展をお祈りしましてお礼のごあいさつとさせていただきます。

永年勤続30年表彰を受けて

いわき市医療センター 画像診断 中央放射線室

村上 光幸

この度、日本放射線技師会から永年勤続30年の表彰を頂きました。事務局から数回、表彰式の出欠確認の連絡を頂きましたが、コロナ禍ということで欠席とさせて頂きました。残念でしたが、仕方がありません。後から振り返れば、それもまた時代を映した良い思い出になる日が来ると思っています。

理数系に弱く、愚鈍な私が30数年に渡り放射線技師と働いて来られたのは、家族の支えはもちろんのこと、歴代の諸先輩方の温かい見守りがあり、そして何よりも今一緒に働いてくれている同僚、後輩の皆様の励ましや応援があつてのことと深く感謝しております。また、装置の選定から導入、メンテナンスに至るまでの過程においてメーカーの方々、代理店の皆様にもお世話になり、この場をお借りして重ね重ね厚く御礼を申し上げます。

私が放射線に携わることになった学生時代から今日までを、国内外のアーカイブと重ね合わせて振り返ってみたいと思います。

1986年にチェルノブイリ原発事故が起きました。放射能汚染が世界的に話題になり、連日のように昼夜を問わずに報道されていました。その影響や関心があつてと言うわけではありませんが、その翌年、1987年昭和62年4月に技師学校に入学しました。1986年12月からのバブル景気で東京都心界隈は活気があつたようですが、葛飾区亀有の下町周辺に住んでいた私は、華やかなキャンパスライフを送ることもなく、ただひたすら自転車で、中川沿いと水戸街道を往復して学校へ通っていました。そんな学生時代を過ごして、卒業を翌年に控えた1989年には、天安門事件があり、昭和天皇崩御により、元号が昭和から平成に改元されて新しい時代の幕開けとなりました。就職をしたのは、平均株価が2万円を割り込みバブル崩壊の足音が聞こえ始めた1990年平成2年のことです。当時いわき市には、小規模のいわき市立好間病院、中規模のいわき市立常磐病院、大規模のいわき市

立総合磐城共立病院の3つが市立病院として開院していました。私は、いわき市立常磐病院に配属されました。当時の常磐病院中央放射線部には、3分30秒処理の大きな外付けの現像液と定着液のタンクと廃液を受けるポリタンクがある大型の自動現像機があり、月に一度はラックの清掃をしていました。それからしばらくしてケミカルミキサー付きの自現機が入り、さらに少ししてから、90秒処理のカートリッジ内蔵の自現機が導入されました。自現機で一番苦勞したのは、アナログマンモグラフィです。液の管理、ラックによる傷など様々なトラブルがありました。その分、デジタルマンモグラフィが導入された時は、その画質の素晴らしさに驚いたことは今でも覚えています。それからしばらく過ぎて、市立病院の統廃合により、2009年の4月にいわき市立総合磐城共立病院(現いわき市医療センター)に異動になり、2011年の3月に東日本大震災、原子力災害を経験し、森友加計問題で揺れた2018年の12月に、現いわき市医療センターが新築移転しました。2020年の3月頃からは、新型コロナの対応にも従事することになりました。ここ数年、歴史に残るような災害やパンデミック、一度あるか無いかの病院の新築移転に、放射線技師として微力ながらも関わらせていただいたことは、とても良い経験が出来たと思います。いつの時代も想像を超えて技術は発展していくと思います。技術の発展により技師として、やらなくてもよくなった仕事、やらなければならない仕事の両方が増えたと思います。技術は発展しても、基本的なスタンスは変わらないと思いますので、技師になった当初のあの頃の気持ちを、この機会に思い出して、まだまだ仕事をしていきたいと思いますので、ご指導のほどよろしくお祈りします。

永年勤続30年表彰を受けて

医療法人 社団栄央会 なこそ病院

森下 克彦

この度は、永年勤続30年の表彰をいただきまして誠にありがとうございます。これもひとえにご指導いただいた諸先輩方をはじめ、この職業に就いてから出会った多くの方々の支えがあったからこそ今日までやってこられたのだと思っております。この場を借りてお礼申し上げます。

私は平成2年に整形外科医院に入職いたしました。その当時田舎の個人医院に診療放射線技師がいることが珍しく周りの方々に良くして頂いて楽しく和気あいあいと仕事をしていました。整形外科で仕事をしているとほとんどの業務が一般撮影で、たまにリハビリの手伝いや、看護師の手伝い等も行っていました。ある日同期と集まった時、CTやMRI、カテーテル検査等の話が出たとき同じ技師でありながら全く会話につけて行けず、何もしてこなかった自分の情けなさを実感しました。それから技師としてこのままで良いのかと疑問を持つようになり、自己流で勉強を始めたもののやはり教科書だけではなかなか身につかず当時の院長にお話しして市内の総合病院での研修の許可をいただきました。学生時代の辛い実習を思い出しながら緊張して向かうもその病院の先輩技師は優しい方々で丁寧に指導していただきました。そこで教わった消化管検査にとっても興味をもち消化管撮影に関する技術、知識を身に着けたいと思うようになりました。一般撮影も突き詰めれば深いものがあると思うのですが、その当時は兎に角今やっていない仕事をしたいという気持ちが強く、整形外科医院をやめて他へ行くことを決めました。

知り合いの技師を通して希望の病院へ就職する事が出来たのですが、その時すでに7年が経ち、何も技術のない自分は8年目の新人技師としてまた一から指導を受けることになりました。その当

時8年目の新人技師を温かく迎え入れてくれた先輩、後輩？技師には感謝です。

その病院ではやりたかった消化管検査をかなり詳しくやっていた技師長がいて少しでも近づこうと必死で勉強しました。この検査は術者によって病気が発見されたり、正常が病気のように写ってしまったりするため技術と知識がとても必要と感じ、勉強会へも積極的に参加するようになりました。自分なりに身についたと思っておりますが、あまりにも偏りすぎた勉強をしたせいで、CTやMRIが苦手になってしまい、苦手を通り越して苦痛を感じるほどで、造影検査が入るものなら毎回冷や汗をかきながら検査していたのを思い出します。

CTやMRI装置の発展は目まぐるしいもので、年齢を重ねるごとについていけない自分があります。カルテも電子化になり益々覚えることが多くついていくのがやっとなってきました。まだまだ勉強だなと思えます。

東日本大震災を経て放射線被ばくが注目され、今後発展していく医療にとって診療放射線技師という職業がどうなっていくかはわかりませんが、現時点では必要とされる仕事であり、それにはアップデートをしないと取り残されてしまうという危惧もあります。

現在の職場は最新の検査等はやっていないものの常にアンテナを張り、精進していきたいと思っております。そのためには技師会の存在というのは必要不可欠なものと感じております。これからも人と技術の繋がりを作っていただける放射線技師会の益々の発展を祈念して御礼のあいさつとさせていただきます。

永年勤続20年表彰を受けて

医療法人辰星会 榊記念病院

安部 努

この度は、永年勤続20年表彰をいただきまして誠にありがとうございました。改めて、20年とこれまでご指導いただきました技師の諸先輩方をはじめ先生方に感謝申し上げます。

私が診療放射線技師になった当時を振り返ると、一般撮影はまだフィルム撮影であり、その後IP、FPDへの移り変わりを経験して参りました。改めて振り返りますと、昔に比べ画像処理もでき、検査のワークフローも大きく向上したのだなと実感します。(今となってはフィルムでうまく撮影できるのか?と忘れてしまいます。)

CTにおいてもノンヘリカルCTからシングルヘリカルCT、マルチスライスCTへの移り変わりを経験し、再構成法もFBPのみだったものが、今ではIR(応用)法、Deep Learningも可能となりました。

技術の向上はとてもうれしく思う反面、それと共に学ぶべくことも多くなり、それはそれで嬉し

い悩みでもあります。

近年は、診療放射線技師として医療に関わるだけではなく、主にDMATとしての災害医療活動をはじめ、院内の防災対応にも関わることも多くなり、今は技師としての業務よりも、災害に関わる業務が多くなっているかもしれません。

(DMATに誘っていただき、業務をたくさん増やして下さった石川先生には感謝しております!!)

他施設の診療放射線技師や災害医療に従事する方々との出会いにも恵まれ、その出会いが無ければ自分は自病院のことだけしか知らず、何も進歩しようとしないうちに、まさに井の中の蛙であったと思います。改めて、諸先輩方や仲間との出会いに感謝しております。

これからもより一層精進してまいりますので、今後とも皆様、ご指導のほどよろしく願いいたします。

永年勤続20年表彰を受けて

一般財団法人 太田総合病院附属 太田西ノ内病院

遠藤 怜子

小学生の時に、「夏休みの友」という宿題があった。毎日コツコツやって確実に終わるつもりが、休み最終日に抜けているページが数か所見つかり、ギリギリまで広げているタイプだった。まじめにやっているつもりでも、どこか詰めの甘い人生を歩んできた。

そんな小学生の私は骨折することになる。祖父との馬飛びで落馬し、上腕骨を骨折。大きな機械を操る放射線技師と出会い、医療職をなんとなく目指し始めた。

紆余曲折を経て、栃木にある国際医療福祉大学に進み、当時は何もない田舎の大学で、自由とバイトとダンスに明け暮れた。

実習先でお世話になった福島県立医科大学附属病院で、心に残る言葉をかけて頂いた。「CTや写真を撮って、はい終わりではなく、この患者がもし自分の家族だったら、他に病気はないか画像を隈なく観察するでしょう？そういう気持ちでいつも検査をしなさい」。今の自分はそのように検査が出来ているだろうか。

2001年に太田西ノ内病院に入職し、現在に至る。当直し始めて間もない深夜に、投身自殺した若い女性が運ばれてきた。当時は死亡診断書用で大量に写真を撮影することがあったが、フィルムだった。なんの権限があるのか、連れてきた看護師に「よし！1人でやってみよう！」と仕切られ、先輩を呼ばずに、ただひたすら無言の撮影をした。なぜ、飛び降りたのだろうか、なんて考えていたら、暗室の暗闇で怖くなりドラえもんを歌いながらフィルムを現像した覚えがある。

その後、放射線治療に携わる機会を得た。検査では一瞬しか顔を合わせない患者と、治療では毎日顔合わせ、治療ならではの失敗も沢山経験した。背中に素晴らしい絵画が描かれた患者に薄くなったマーキングを書く際、間違っただけの線を書き足し、新たな彩りを添えた。笑って怒られたが、身の引き締まる思いをした。また、5歳のわが子を残して亡くなった乳がんの女性のことは今でも

忘れられない。少しでも長く生きたいと毎日頑張って照射に来ていた。乳がんのことを勉強し、自分が扱う装置に責任を持つべく、測定の大事さを教わったのは放射線治療部門からだった。

現在、40歳を超え、惰性で生きているような感覚を抱く時がある。焦点が合わなくなってきた目玉、可動域の狭くなった鈍い身体、老いとの戦い、そんなことを笑いながら話せる今の職場が好きである。この職場を皆がもっと働きやすい場所にするためにはどうすべきなのか。当院の存在価値を尊重した上での、個人の個性や特性を活かす方法は難しい。自分の苦手は誰かの得意。恥ずかしながら、最近ようやく本気で考えるようになった。

「人生100年時代が始まった」と言われる。本当に言葉通り100歳まで生きられると仮定し、100年を春夏秋冬の周期で分けたとしたら、40歳は夏の中盤くらいだ。秋すら始まっていない。

まだまだ先は長い。自分が生きるのと家族を生かすので精一杯なのは確かだが、もしかすると私の人生は、もはや冬至くらいかもしれないので、後悔ないように一生懸命生きようと思う。

「20年」。0歳の乳児が成人式を迎えるほど、長い年月をこの病院で過ごしてきた。失敗して悩んでも、またいつも通り画像を撮り続けてこられたのは、周りにいるスタッフのおかげだと思う。喧嘩もするけど、失敗を笑いに変えてくれる同期4人、ピンチの時に必ず助けてくれる上司、小馬鹿にしてくるが頼りになる後輩軍団、優しく教えてくれる放射線科の医師・看護師、人生の先輩母ちゃんマダム助手。私が放射線技師を辞めずにここまで続けてこられたのは、素晴らしい仲間が支えてくれたからである。

今回、このような表彰を受けたことは、これまでの20年を振りかえり、周りへの感謝を再確認する機会となりました。

この度は、永年勤続会員として、このように表彰して頂き、誠にありがとうございました。

永年勤続20年表彰を受けて

一般財団法人 太田総合病院附属太田熱海病院

関根 康孝

この度、日本放射線技師会より永年勤続20年表彰をいただき誠にありがとうございます。皆様の支えがあってこそこの表彰だということを改めて実感しております。この場をお借りして、御礼申し上げます。

私は2003年に太田総合病院に入職しましたが、その前までは実家がいわき市ということもあり、茨城県北茨城市にある病院に勤務しておりました。その病院にいる技師は私を含めて2人、いわゆる療養型の病棟を主体としている施設で、主な仕事といえば入院患者のCT撮影とポータブルでの撮影でしたが、特に仕事に対する不満は無く日々を過ごしていました。むしろ、病院の事務をしていた母の助言で何となく放射線技師を目指した私にとってはそれぐらいの仕事量が心地よかったのかもしれませんが。ところが就職してからそろそろ2年経とうとしたある日の休憩時間、コーヒーを飲んでいた技師長が「関根、お前はもっと大きい病院で勉強したほうがいい。もし大きい病院で働けるチャンスがあるなら、挑戦していいんだぞ。」と、少々クールな描写に見えますが、経験豊かな大先輩の一言は熱く、重みがあり当時の私の心に強く響き、そんな大きな後押しを受け、タイミング良く太田総合病院の求人の情報を知った私は、運よく中途採用という形で太田西ノ内病院へ入職することができました。

しかしながら、2年間の実務経験があるものの、当然ながら総合病院での業務は未知の領域ばかり、最初に直面した難関はアナログ写真でした。当時の西ノ内病院はポータブル撮影を除いてはアナログ写真が主体で、前の病院でのデジタル写真に慣れてしまっていた私にとって、正確なポジショニングに加えて撮影条件が大きく影響するアナログ写真は難しく、悪戦苦闘の毎日でした。また、救急患者を受け入れていることもあり、多種多様な患者への迅速かつ正確な対応を求められる現場は緊張の連続でした。そんな中、冷静かつ正

確な撮影をこなす先輩方の仕事ぶりには感心どころか尊敬の眼差しを向け、いつしか自分もあなりたい！と思うようになりました。

入職から3年程が経ち、一般撮影や当直にも一通り慣れ、心カテやアンギオ業務に携わることができるようになったころ、結婚を機に太田熱海病院へと異動となりました。

熱海病院では健診業務の一環である胃透視検査や、西ノ内病院では携わらなかった核医学検査などを経験することができ、放射線技師としての業務の幅を広げることができました。

私には中学1年生になる娘がいます。そんな娘の将来の夢は、薬剤師です。親の背中を見て、医療従事者を目指してくれたのかな？とも思いましたが、おそらく近年の美男美女が演じるドラマの影響が大きいかと…。ともあれ、未来のビジョンを持ち、勉学に励む姿は我が子ながら感心しています。彼女の将来に期待したいところです。

現在、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、日本のみならず世界中が未曾有の事態となっており、経済も非常に厳しい状況となっています。そんな状況下、我々医療従事者も今まで以上にスキルが求められている時期が来ています。まだまだ、スキルアップの為の講習会や勉強会を直接聴講する機会は難しい状況が続いていますが、逆に参加が難しかった遠方でのセミナー等にオンラインで参加できるチャンスと捉え、自己研鑽に努めたいと思います。

最後になりますが、私を支え、ご指導いただいた先輩、そして少しでも頼りにしてくれる後輩に感謝し、お礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

永年勤続20年表彰を受けて

J A 福島県厚生連 塙厚生病院

佐藤 秀樹

この度は永年勤続20年表彰を頂きまして、誠にありがとうございます。これまで診療放射線技師として続けてこられたのは、今まで出会った方々のご指導や支えがあつてのことだと思っております。この場を借りて御礼申し上げます。

私は平成13年に浜通りにある鹿島厚生病院に入職いたしました。小さな病院で当初は技師2名で業務を行っておりました。自動現像機を使つてのフィルム運用であり、体型や撮影距離を考慮して撮影条件を予測するのは今でも大事ですが、当時はよりシビアで必要性の高い技術の一つでした。ポジショニングよりも撮影条件不良での再撮影が多かつたように思います。その病院で4年間働かせて頂いたあとに白河厚生総合病院へ転勤となりました。

白河厚生は福島県厚生連の中では一番大きな県南の病院であり放射線技師もその当時20名ほどで、一番小さな病院から大きな病院に移つたということで検査の多さからリスク管理の厳しさまで初めて体験する事ばかりでした。その白河で6年が経過した平成23年、浜通りの公立大野病院への異動命令を受けました。双葉厚生病院と公立大野病院が合併することになり、双葉は健診をメインで公立大野では通常診療を行う予定でした。4月からお世話になるということで3月11日に挨拶に行ったその帰り道、あの東日本大震災に見舞われました。運転中でしたが今までに経験のない揺れの大きさと、収まるまでしばらくその場で停車していたのを覚えています。その震災と原発事故の影響で、合併と転勤は白紙に戻りました。そのまま白河厚生で働かせて頂くことになり、それから4年後、今度は会津の坂下厚生総合病院へ異動となりました。出身が会津若松なので、入職して14年経つてようやく地元に戻れました。会津への異動直前に母は病で他界しましたが、高校以来の実家で生活する日々は貴重な時間でした。

坂下厚生総合病院は一般撮影の多さが印象に

残っています。当時は一般撮影室が二部屋しか無いにもかかわらず、整形の先生が手伝いに出る水曜以外の平日の午前中は100人程度の外来患者をその二部屋で撮影していました。一時間以上待たせることも多々あり、クレームや順番の確認も毎日のようにありました。膝の手術件数も多く、それに伴つて膝の撮影も多いため、坂下にいた4年間で膝関節撮影については大分自信が付きました。坂下厚生は令和3年に新築移転予定であったため、坂下にいた頃は皆で移転の準備や計画を毎日少しずつ進めていました。できれば移転後の新しい病院でも働きたいと思っていたのですが、令和元年に現在私が所属させて頂いている中通りの塙厚生病院へ異動になりました。

塙厚生病院への異動前は地元から離れるということもあり気が重い部分があつたのですが、働き始めてみるととても職場環境が良く、来られて良かったと思うようになりました。塙厚生は放射線技師が9名の中規模病院ですが、働きやすいと思つたのは塙の技師のほとんどの方と他の病院と一緒に働いた経験があつたということも大きいと思います。

入職してからのことを振り返ると、感覚としてはあつという間でも、こうして文章にしてみると本当に20年色々な場所で働いてきたんだなあとしみじみ思います。仕事ですから辛いことや大変なことも多々ありましたがそれを含めても良い20年だったと感じています。繰り返しになりますが不器用な自分がここまで働いてこられたのは周りの方々のおかげです。これからも周りとは協力しながらこの仕事をできるだけ長く続けていければと思つています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

最後に福島県診療放射線技師会のますますのご発展と皆様のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お礼の挨拶とさせて頂きます。

永年勤続20年表彰を受けて

一般財団法人 脳神経疾患研究所附属総合南東北病院

佐藤 泰章

永年勤続20年表彰をいただき、ありがとうございました。これまでご指導いただきました諸先輩方、支えて下さった同僚、後輩の方々へ心より感謝し、お礼申し上げます。

もともと岐阜県の出身で学校卒業後、公立病院で3年働いていました。縁があり、福島県に移り住んで約20年経ちました。福島県に来てからは、福島西部病院、二本松病院にて検診バス業務で働かせていただき、その後総合南東北病院に入職し現在に至ります。

20年間診療放射線技師として働き、いろいろな場面に遭遇してきました。2000年問題の対応、アナログからデジタルへの移行、フィルムレス、ペーパーレスへの移行、新規機器の立ち上げ、新規施設の立ち上げなど色々経験させていただきました。

岐阜県にいたときは200床あまりの古い病院で機器はRIや放射線治療もなくMRIも0.5Tの施設で3年間働いていました。なかでも暗室担当という今では考えられない業務もあり、Angio検査時、大角フィルムを暗室で充填し、撮影後順番を間違えないように自動現像機にて現像したり、アナログでサブトラクションしたりかなりレアな体験もさせていただいていました。

総合南東北病院へ入職してからは、新しいこと

の連続で、必死に働きました。アナログからデジタルへ一気に変わり、一般撮影ではフィルムからCR、FPDへ変更。CTは多列化し、血管構築などの画像処理のルーチン化。MRIでは0.5Tから1.5T、3Tへ。通常業務の内容が一気に変わってきました。

新規業務の立ち上げも数多くさせていただきました。機器更新時の対応で、Angio装置、透視装置、PET装置などを立ち上げ、また、新規業務としてPET薬剤用研究施設の立ち上げ、ハイブリッドオペ室の立ち上げなどにも携わらせていただきました。各担当医師や各部署スタッフ、メーカーさんと連携しその意向に沿うこと、技師として使用しやすい環境に整えることの難しさ、大切さ、重要さなどを実感しました。

これから、さらに機器の進歩や、撮影技術の向上、新規検査の導入、技師としての業務内容拡大など色々な変化が訪れると思います。今までの経験を活かし、また新しい意見等にも耳を傾け先輩方、同僚、後輩たちと日々成長していき、いろいろな難題を乗り越えていけるよう精進していきたいと考えています。今後ともご指導の程よろしく願いいたします。

学術奨励賞・論文賞を受賞して

一般財団法人大原記念財団 大原総合病院

村松 駿

皆さんは、研究発表は研究のどの段階でされているでしょうか？私は、研究のゴールは論文にしておき、その途中に学会の演題募集がありましたら応募しています。もちろん、論文になったものは新規性がないので発表はしないようにしております。なので、無理をして発表はせずにタイミングが良い学会があった際に発表をしております。無理をして抄録を書いて発表をすると発表で燃え尽きしてしまい論文までに至りません。これから研究をはじめの方がいらっしゃるれば是非、研究のゴールを論文に設定してみましよう。

皆さんの中には、研究をやってみたいけれどもテーマが見つけれられない方もいらっしゃると思います。そんな時は、日常で私たちがいつも通り行っている一つ一つの行動に理由をつけてみて下さい。おそらく全て説明できないと思われれます。また、意外と理由は分からないけど当たり前に行っていることが多いと思います。そこをネット検索して、出てこないものは明らかになっていないことです。そこに研究テーマがあります。

研究をしていることが凄いことではなくて、臨床業務を勉強している先に必然と研究があると思います。昨年4月に当院には、芳賀美祐さん・三浦夏美さん・田中勇人さんの優秀な3名が当院に入職され、私がCTの教育担当になりました。私自身、人に教えることは初めての経験でした。最も意識して伝えていたのは、「分からないことは分からないと素直に言おう」ということです。これが凄く重要なことだと思っています。なぜならば、分からないことを素直に言えないと、情報が入っ

てこなくなるからです。新人であろうとベテランであろうと同じことだと思います。特に新人のうちに、変なプライドは不要であることを伝えて多くの情報を入手できる人間力を鍛えるべきだと思います。

私が多数の論文を執筆できていることは、もちろん自分自身の努力もしていますが、上記で述べた「分からないことは分からないと素直に言う」ことを意識しているからです。必ずその分からないことに精通された先生方がいらっしゃいますし、おそらくほとんどの研究者は喜んで教えてくれると思います。論文を執筆して感じたことですが、自分の研究内容について興味を持って連絡してきてくれるのは非常に嬉しいことです。必ず論文には、著者の連絡先が示されているので、分からないことがありましたら、思い切って連絡してみましよう。

最後に、臨床業務と研究を併用して行うことは、たとえ自分が好きな分野の研究であっても物凄いエネルギーが必要になります。その際は、小さな目標を立ててクリアするたびに何か自分自身にご褒美をあげて下さい。ドラえもんの名言に「立派すぎる決心はきっと三日坊主になるから」という言葉があります。あまり高い目標は立てずに、小さな目標で十分だと思います。そうすれば継続して行けますし、確実にレベルアップできると考えています。

この度は、学術奨励賞と論文賞を頂き、誠にありがとうございました。

論文賞を受賞して

JA福島厚生連 白河厚生総合病院

小室 敦司

この度、日本核医学技術学会学会誌「核医学技術」に投稿した「 ^{99m}Tc 心筋血流SPECTにおける横隔膜下高集積の影響を抑制する手法の考案ならびに画像再構成法を含めた有用性の検討」が論文賞をいただき、大変光栄に思っております。

論文の内容について説明させていただきます。心筋血流シンチグラフィ（以下、心筋シンチ）に影響を与える要因は様々で、心拍動や呼吸、心臓周辺臓器による減弱、そして横隔膜下の臓器集積（以下、心外集積）による散乱線、ストリークアーチファクト、部分容積効果が挙げられます。これらの影響により正確な血流分布の評価が困難な経験をしたことが誰にでもあり、各施設での技術的な工夫や患者さんの協力により対応されていると思います。

今回考案したMasking process on unsmoothed images（以下、MUS法）について概要を説明します。従来の心筋シンチにおける画像処理は再構成・スムージングを行った後にリフォーマットし、必要に応じてマスクングという流れで行われていました。この処理における高周波ノイズ低減を目的としたスムージングが心外集積にも適用される結果、心筋に影響を及ぼすことに着目し、スムージングを行う前に心筋と心外集積が分離できている時点で心外集積をマスクアウトする手法で、心外集積による部分容積効果の影響を抑制する効果が得られます。

MUS法はシンプルな考え方であり、患者に負担はなく検査スルーットにも影響しません。心外

集積の頻度が比較的高いとされる心筋血流製剤 ^{99m}Tc -MIBIでより抑制効果を発揮し、画像処理をする診療放射線技師、読影をする医師のストレスが少しでも緩和できることが期待できます。当院でもこの手法を採用し1年以上経過しますが、心外集積の影響がないと思われる症例でもMUS法をルーチン化し全症例に行っています。従来の方法と比べ処理時間の延長はなく、経験年数の少ない若手の診療放射線技師も画像処理のしやすさを実感しています。ただし、全ての症例で完全に抑制できる訳ではなく、あくまでnon-Filterで再構成した画像が心筋と心外集積で分離していることが前提となります。より効果的に発揮する最適な画像収集・再構成条件、各種補正の組み合わせを心筋ファントムにて解析も行っていますので是非、興味のある方は論文を一読していただければ幸いです。また、今回心筋シンチにフォーカスしていますが、目的部位に対して同様の問題が生じる他の検査においてもMUS法の抑制効果に期待ができます。今後、心筋シンチから心外集積の影響についての話題がなくなることを望み、MUS法をより多くの施設で活用していただき、その効果を実感していただきたいと思います。

最後になりますがこの論文作成にご協力いただいた富士フイルム富山化学株式会社の方々に感謝を申し上げ、診療放射線技師として常に向上心を持ち、臨床に役立つ情報を提供できるよう日々精進していきたいと思います。

令和3年度

公益社団法人 福島県診療放射線技師会



福島県診療放射線技師 学 術 大 会

開催期間：令和4年2月1日(火)～2月14日(月) 2週間

開催形態：Web開催 オンデマンド形式(You Tube配信)

大会長：新里 昌一 公益社団法人福島県診療放射線技師会会長

～ プログラム概要 ～

●一般公開講演●

「福島第一原子力発電所事故とCOVID-19パンデミック
：類似点と相違点を考える」

◇福島県立医科大学 放射線災害医療学講座
教授 長谷川 有史 先生

●会員限定特別講演●

「COVID-19の現状と感染対策について」

◇福島県立医科大学 感染制御学講座
准教授 仲村 究 先生

●論文賞受賞者講演● 令和2年度学術奨励賞論文賞受賞論文より

「ポジショニングって大事なの？」

◇大原総合病院 画像診断センター 村松 駿 氏

- * 一般講演はどなたでも閲覧可能です。
県技師会HPに期間中URLを貼付してあります。
- * 特別講演、論文賞講演は会員のみ閲覧可能です。
QRコードから登録して頂いた方のみ前日までに
URLを配布致します。

主催：公益社団法人 福島県診療放射線技師会

福島県診療放射線技師学術大会を終えて

学術委員長

松井 大樹

2021年度（令和3年度）学術大会報告

令和3年度福島県診療放射線技師会学術大会に関して

期間：令和4年（2022年）2月1日から2月14日

形態：web開催（You Tubeによるオンデマンド方式）

●一般公開講演

「福島第一原子力発電所事故とCOVID-19

パンデミック類似点と相違点を考える」

福島県立医科大学 放射線災害医療学講座

教授 長谷川有史先生

●会員限定特別講座

「COVID-19の現状と感染対策について」

福島県立医科大学 感染制御学講座

准教授 仲村 究先生

●論文受賞者講演

「ポジショニングって大事なの？」

大原総合病院 画像診断センター

村松 駿氏

登録人数：122名（県のみ16名、他県3名）

視聴回数：一般公開講演：249回

論文賞受賞者講演：121回

会員限定講演：132回

昨年度に引き続きWeb開催という特殊な環境下ではありましたがご参加頂き視聴して頂いた会員の皆様には感謝申し上げます。今回の登録人数は福島県下の技師数を鑑みると大凡20%程度という結果になりました。各講演の内容も非常に今の世相を様々な角度で考察して頂いた内容であり、最新のデータも取り入れて構成して頂きました。私ども学術委員の広報の至らなさも一因として来年度に向けて今回の反省を活かし会員の皆様に関心を持って頂けるような魅力的な大会の企画案を立案していかなければならないと思っております。

来年度はハイブリッドでの開催を予定しており

時期は10月後半を予定しております。詳細は県のホームページにて随時更新していきますので皆様の参加をお待ちしております。

令和3年度学術大会にご参加頂いた皆様、開催にご尽力して頂いた各位に厚く御礼を申し上げます。

2021年度（令和3年度）学術賞論文賞の方々

●『大動脈3D-CTAにおける台形クロス注入法の有用性』

大原総合病院画像診断センター 村松 駿

日本放射線技術学会雑誌（Vol.77 No.6 Jun 2021）

●『Quantitative measurements of emphysema in ultra-high resolution computed tomography using model-based iterative reconstruction in comparison to that using hybrid iterative reconstruction』

大原総合病院画像診断センター 村松 駿

Physical and Engineering Sciences in Medicine
(1 July 2021)

DOI 10.1007/s13246-021-01091-2

●『^{99m}Tc心筋血流SPECTにおける横隔膜下高集積の影響を抑制する手法の考案ならびに画像再構成法を含めた有用性の検討』

白河厚生総合病院 小室 敦司

核医学技術41(4): 431-441, 2021.

近年学術論文賞の申請が増加傾向にあり学術委員としても喜ばしい限りです。2022年（令和4年）1月1日より学術表彰細則を改めました。一人でも多くの方に受賞を目指して頂きたいと思っております。

今後ともより良い学術大会運営を目指して参りますので会員の皆様のご意見をお待ちしております。

2022初春 学術委員一同

令和3年度 精度管理委員会 活動報告

会津中央病院

森谷 辰裕

いまだに静まる気配を見せない新型コロナウイルスの影響により、思うように活動出来ない状況が続きますが、精度管理委員会としては、それまでの活動の継続に努めてきました。

技師会ホームページからの貸し出し依頼件数は下記の通りになります。

X線アナライザPiranha Premium	6件
X線アナライザPiranha 657	0件
電離箱式サーベイメータ	3件

Piranha Premiumは付属機器やプローブ種類が多いために、Piranha657よりも貸し出し依頼が多くなる傾向にあります。測定機器本体は同様の

機器であるので、Piranha657の方も、もっと利用していただきたいところです。

2018年よりX線アナライザPiranhaは2台体制での運用となり、県北・県南・会津・浜通りの4地区を、3ヶ月ごとのローテーションで巡回しながら利用していただいています。

昨今の法・規則などの改正により、普段の業務で使用するX線機器の線量管理に関して、だいぶ細々とした部分まで問われるようになっております。皆様方の御施設においても、X線アナライザPiranhaを積極的に活用して頂き、日常業務に役立てていただければと思っております。

令和3年度 X線アナライザ Piranhaローテーション表

担当月	Piranha Premium	Piranha 657
4-6月	県北：佐藤勝正（福島医大病院）	県南：篠原宏幸（土屋病院）
7-9月	会津：皆川貴裕（竹田総合病院）	浜通：高橋豊和（常磐中央病院） 鈴木敬一（公立相馬総合病院）
10-12月	県南：篠原宏幸（土屋病院）	県北：佐藤勝正（福島医大病院）
1-3月	浜通：高橋豊和（常磐中央病院） 鈴木敬一（公立相馬総合病院）	会津：皆川貴裕（竹田総合病院）

令和3年度 調査委員会 活動報告

公立藤田総合病院

佐藤 佳晴

役員改選の年なので調査委員会も新しいメンバーで活動を始めました。新型コロナウイルス感染症の影響で合同委員会は開催できなかったので、メール等で調査委員会の活動について話し合いました。

2021年4月に水晶体に係る被ばく限度に関する法改正があり、ガイドラインが示されました。被ばくに関する関心も高まり、各施設でもこの状況に対応しなければなりません。そこで、今年度の調査委員会の調査内容は水晶体を含めた被ばくの

管理に決定しました。さらに調査項目を洗い出し調査項目のリストを作り、その中から最終的な項目を決めました。これらの話し合いはメールで行いました。

今後の予定として、アンケートを印刷し、各施設に送付する。次に、アンケートを回収し集計、分析を行いパワーポイントを作成する。また調査報告は福島県診療放射線技師会の学術大会で発表します。

令和3年度 学術委員会 活動報告

北福島医療センター

松井 大樹

- ・ 2月15日～2月28日【前年度未報告】
令和2年度福島県診療放射線技師学術大会をWeb開催にて開催。You Tubeによるオンデマンド配信。
- 1. 一般公開講座
『ふくしまで診療放射線技師になる』福島県立医科大学保健科学部診療放射線学会のご紹介
福島県立医科大学新医療系学部設置準備室
久保 均 先生
- 2. 会員限定特別講演
『これからの診療放射線技師像－協働・連携によるチーム医療と診療放射線技師の業務拡大』
公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長
上田 克彦 先生
- ・ 6月28日 第1回学術委員会開催
Webex MeetingによるWeb開催
議事(1) TCRT2021に関して
(2) 令和3年度福島県診療放射線技師会学術大会素案作成
(3) 学術論文賞についての検討
- ・ 7月2日
福島県放射線技師会HPの学術大会の項目に関して前期の状態であった為、見直しと一時閉鎖項目に関して委員会内で学術MLを利用して検討する。
- ・ 7月19日
学術MLにてHP記載変更に伴い、学術奨励賞細則を再考する件を報告し了承を得る。
- ・ 8月6日
バックパネル納品の報告が入る。保管場所は郡山事務所兼研修センターと決定。
- ・ 10月20日
福島県診療放射線技師会学術大会の講師選定を学術MLにて行い、県立医大の長谷川教授（放射線災害医療学講座）と仲村准教授（感染制御学講座）と決定となる。細則の案を学術MLにて共有し互いに校正を行うこととする。
- ・ 12月17日
理事会での学術委員関連の案件をMLにて報告する。次年度の学術大会の日程10月30日を候補として学術委員会内にて了承される。開催方法に関しては継続審議中。
- ・ 1月28日 第2回学術委員会開催
学術委員（松井・名城・鈴木・村山）、ネットワーク委員（石森）計5名で郡山事務所にてwebに学術大会動画データのアップロード作業実施。
- ・ 2月1日～2月14日
令和3年度診療放射線技師学術大会（web開催）
You Tubeによるオンデマンド配信。
- 1. 一般公開講演
『福島第一原子力発電所事故とCOVID-19パンデミック：類似点と相違点を考える』
福島県立医科大学 放射線災害医療学講座
長谷川有史 教授
- 2. 会員限定特別講演
『COVID-19の現状と感染対策について』
福島県立医科大学 感染制御学講座
仲村 究 准教授
- 3. 論文賞受賞者講演『ポジショニングって大事ななの？』
大原総合病院 画像診断センター 村松 駿
- ・ 令和3年度 学術奨励賞・論文賞について
- 『大動脈3D-CTAにおける台形クロス注入法の有用性』
大原総合病院画像診断センター 村松 駿
日本放射線技術学会雑誌 (Vol.77 No.6 Jun 2021)
- 『Quantitative measurements of emphysema in ultra-high resolution computed tomography using model-based iterative reconstruction in comparison to that using hybrid iterative reconstruction』
大原総合病院画像診断センター 村松 駿
Physical and Engineering Sciences in Medicine (1 July 2021)

DOI 10.1007/s13246-021-01091-2

- 『^{99m}Tc心筋血流SPECTにおける横隔膜下高集積の影響を抑制する手法の考案ならびに画像再構成法を含めた有用性の検討』

白河厚生総合病院

小室 敦司

核医学技術 41(4): 431-441, 2021.

令和3年度 広報編集委員会 活動報告

総合南東北病院

鍵谷 勝

2021年度事業計画

1. 福島放技ニュース

・取りまとめ担当

いわき医療センター 佐藤 龍一

・奇数月に発行（年6回）

・今年度に決定した編集担当の割り振りで編集を行う

・記事は、各地区の委員に協力を仰ぐ

・各勉強会等の情報が分かり次第、編集担当者に情報の提供をする。

2. 会報

・取りまとめ担当

総合南東北病院 鍵谷 勝

いわき医療センター 佐藤 龍一

・12月に原稿依頼

・原稿締め切り令和2年2月末

・3月末までに各担当者による編集校正

・4月発行を目指す

活 動

1. 「福島放技ニュース」の発行

2021年 7月30日 183号

9月24日 184号

11月26日 185号

2022年 1月28日 186号

3月25日 187号

5月27日 188号

2. 「会報」の発行

2021年度末に発行

広報グッズ

今年度も各行事が中止または縮小のため購入を見送った。

担当一覧

「福島放技ニュース」担当

◎佐藤 龍一 いわき医療センター

小池 沙織 北福島医療センター

風間 顕成 高田厚生病院

平澤 康浩 有隣病院

布川真理子 渡辺病院

大井 和広 小野田病院

國分 美加 総合南東北病院

菅原 正志 福島労災病院

「会報」担当

◎鍵谷 勝 総合南東北病院

○佐藤 龍一 いわき市医療センター

元木 弘之 太田熱海病院

安藤 智則 大原総合病院

令和3年度 ネットワーク委員会 活動報告

ネットワーク委員長

石森 光一

本年度は役員改選が行われ、新しいメンバーで委員会がスタートした。委員会活動としてはホームページ、メーリングリスト、メールマガジン配信の構築と運用を行った。

ホームページに関しては掲載情報のリアルタイム更新と掲載情報の一部追加・編集を実施した。内容として技師会事務所移転による申請書類の更新、複雑になっていた各種申請書類の表記内容の変更と統一、技師会で購入したオンライン会議・セミナーツールの申請書類と掲載ページの作成、予約状況確認カレンダーの整備を実施した。

ホームページ掲載情報で賛助会員からのセミナー開催関連の掲載依頼が少ないと感じる。会員および賛助会員の相互に有益なホームページ運用となるように次年度は掲載依頼の見直しを検討したい。

メーリングリストに関して、今期から各メーリングリストのアドレスには任期期間の西暦を入れ作成・運用に変更し、セキュリティ等の観点から同じアドレスを使い回さないこととした。各地区協議会のメーリングリスト運用に関しては各地区協議会に所属する委員に運用管理を一任している。メーリングリスト運用の問題としてメーリングリストに登録されているアドレスに送信したメールを個人が保有する第2・第3のメールアド

レスに転送設定し、転送先メールアドレスからメーリングリストのアドレスにメールを送ることによりメーリングリストに登録されていないアドレスからの送信ということで受付・配信エラーを引き起こしていることである。メーリングリストの運用に関しては運用方法と注意事項を掲載したマニュアルを作成し利用者に配布することによって前年度より配信エラーの数は大幅に減少した。利用者が気をつければ減らせることがわかったので次年度も同じように運用を行っていききたい。

メールマガジン配信では特にトラブルもなく運用が行えているが会員の数に比べ利用者数が少ない。理由として職場の代表アドレスを登録して関係者で情報共有を行っていることが理由と考える。ホームページ更新とあわせて配信しているので会員および賛助会員には是非登録していただきリアルタイムで情報を受け取って頂きたいと願う。

次年度に向けて現在契約しているホスティングサービスや構築しているシステムを上手く活用し、会員に対して有益な情報をリアルタイムに配信できる運用体制を構築したいと考えている。新型コロナの影響でインフラは十分に整備されている。ネットワーク委員会として今できることは何かを考え活動していききたい。

令和3年度 生涯教育委員会 活動報告

一般財団法人 大原記念財団 大原綜合病院

堀江 常満

令和3年度も新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。生涯教育の担当する範囲もその影響をまろに受けてしまいました。

令和3年度は、フレッシューズセミナーおよび告示研修のためのファシリテータ講習およびファシリテータの告示研修を行ってまいりました。

年度内に開催予定となっていた2回の告示研修については、新型コロナウイルス感染症により福島県まん延防止重点措置が発出された期間中の開催日となったため、熟慮した結果、中止といたしました。

・フレッシューズセミナーについて

日本診療放射線技師会と福島県診療放射線技師会が共催した「新人診療放射線技師を対象としたフレッシューズセミナー」が令和3年10月17日（日）にWEB開催されました。今年度は、1年目5名と、2年目4名の計9名の新人診療放射線技師が参加いただきました。

フレッシューズセミナーは、医療者として必要な医療安全学、医療感染学、エチケット・マナーを学ぶだけでなく診療に対応できる新人診療放射線技師として知っておくべき基礎知識の習得を目的として開催されています。今年度からコミュニケーションを含めた必須科目が設けられ、受講者には長い時間の座学となりましたが、気管支体操では画面の向こう側できっと体操して頂いていたと思っております。

参加しやすい反面、顔が見えず臨場感がなかったため、来年度は是非、集合して開催できることを願っております。

参加した皆様からは、「医療安全や感染対策など、業務上欠かせない大切な知識を改めて確認する機会となり、今後ともしっかり意識して行動していきたいと思った。」「技師として経験を積み始めた今、より深い知識となり理解が深まりました。」「放射線防護については、被曝のリスクと検査治療の利益をしっかりと見極めて業務すること、それを他職種に周知することがより良い医療を提供することに繋がると思いました。」「一日を通して、社会人としてのマナーから技師として必要となる知識まで、幅広く学ぶことができました。」「感染対策では、装置の素材により消毒液の種類を変えているというお話が、私自身働いていて気になっていた点だった為参考になりました。」など、講師陣にとってはうれしいコメントを頂きました。

・ファシリテータ講習について

11月27日（土）、28日（日）に東北大学医学部にて告示研修とファシリテータ講習を福島県として10名受講してきました。

自分も講習の指導をすることを念頭に皆さん真剣に取り組んできました。その成果が出せると考えていた2月に予定していた2回の告示研修でありましたが、福島県にまん延防止重点措置が出ていることから、中止としました。

ファシリテータとしては、出鼻をくじかれた感は否めませんが、新年度から2025年度まで年間4回程度実施する予定でありますので、会員皆様の参加をお願いします。

令和3年度 放射線管理士部会 活動報告

星総合病院

佐久間守雄

令和元年に初めて検出された新型コロナウイルスは、変異を繰り返しながら猛威をふるい続けており、部会員の所属する施設や福島県は依然としてその対応に追われている。

そのため、例年開催していたセミナーは中止となり、福島県等が開催する各種訓練は縮小開催を余儀なくされている。

次年度の活動について、管理士セミナーにおいてはWebツールなどを活用した開催方法も含めて検討していきたい。各種訓練においては開催主体の意向も加味し、参加を検討していきたい。

【放射線管理士セミナー】

第7回福島県放射線管理士セミナー

開催中止

《概要》

福島県内外の放射線管理士および放射線管理分野に興味を持つ診療放射線技師を対象とし、日常業務関連や、福島県から発信すべきことをテーマとして開催してきた。令和3年度は残念ながら中止となったが、次年度はWebツールなどを用いた方法を含めて、開催を検討していきたい。

【原子力防災訓練】

令和3年度福島県原子力防災訓練

図上訓練：令和3年11月24日（水）

住民避難訓練：令和3年11月27日（土）

《概要》

東日本大震災後、県では、国、県、市町村及び関係機関職員の原子力防災対応能力の向上を図るとともに、住民に対する原子力災害時に取るべき行動の周知を目的とした訓練を平成25年より実施している。令和3年度は県庁と飯舘村、川俣町で実施されたが、新型コロナウイルス感染症の影響

により訓練の規模が縮小されたため福島県診療放射線技師会への参加要請はなかった。次回開催される際には、従前どおり協力していきたい。

【多数傷病者対応訓練】

富岡町 令和3年10月30日（土）

《概要》

多数の傷病者が発生する大規模災害を想定した傷病者対応訓練が実施された。新型コロナウイルス感染対策のため、見学も不可であった。

【WBCによる内部被ばく線量測定事業】

田村市 令和3年11月6日（土）

田村市都路町 1名参加

《概要》

原発事故に伴う避難指示が解除された地区の住民を対象に内部被ばく線量をホールボディカウンタ（WBC）にて測定し、診療放射線技師が結果説明を担当した。

【第37回日本診療放射線技師学術大会】

令和3年11月12日（金）～14日（日）

東京ビッグサイト

口述発表

「避難指示解除地域の線量把握事業に参加して学んだこと」

田村市立都路診療所 菅野修一 ほか5名

《概要》

田村市において実施された内部被ばく線量把握事業に参加して、学んだことを発表した。天然放射性物質の存在や預託実効線量1mSvの説明の難しさを説明した。

以上

令和3年度 災害対策委員会 活動報告

田村市立都路診療所

菅野 修一

令和3年度も前年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響により、規模縮小や移動自粛のため不参加となるものが多かった。

【防災訓練】

①令和3年度福島県原子力防災訓練【規模縮小】

- ・令和3年11月27日（土）
- ・飯館村・川俣町

新型コロナウイルス感染症の影響により住民避難訓練は規模を縮小したため、福島県診療放射線技師会への参加要請はなかった。

②令和3年度多数傷病者対応訓練

- ・令和3年10月30日（土）
- ・富岡町

大規模な事故を想定した対応訓練であったが、新型コロナウイルス感染対策のため、見学も不可であった。

③みちのくアラート2021

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施されなかった。

【会議】

①令和3年度原子力防災訓練に係る関係機関会議

- ・福島県庁危機管理センター
- 参加要請がないため出席せず。

②令和3年度危機対策連絡会（災害対策連絡会議及び国民保護検討会）

- ・令和3年6月23日（水）
 - ・陸上自衛隊仙台駐屯地
- 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、不参加とした。

【研修会】

以下の研修会の案内を行った。

○令和3年度「甲状腺簡易測定研修（福島県立医科大学）」

- ・令和3年9月23日（木）
- ・福島県立医科大学
- ・会員3名参加

以上

令和3年度 消化器撮影分科会 活動報告

消化器撮影分科会 代表

下山田 明

第39回消化器撮影研究会の開催

日 時：令和3年8月～9月頃
場 所：未定

第39回の研究会は8月から9月に開催予定でした。開催検討の話し合いがあった6月頃は、新型コロナウイルスの第4波が少し落ち着いて来たかに思われましたが、収束には至らず9月頃から感染力の強いデルタ株の発生による第5波が起こりました。

その為、参加者および関係者の健康・安全面の不安や、web開催の準備が出来なかったことなどがあり、世話人の総意によって開催を見送りました。

成人病検診従事者講習会・第39回消化器撮影研究会

日 時：令和4年2月5日（土）
場 所：web開催

登 録 者：80名
参加人数：60名

【プログラム】

教育講演

「前壁撮影、難しい胃形に対しての工夫」

座長 会津中央病院 坂本 直彌

講師	坪井病院	三村 智道
	大原総合病院	町田 拓郎
	総合南東北病院	下山田 明
	福島県保健衛生協会	遠藤 潤
	会津中央病院	白岩 大輔

分科会としては初めてのweb開催であった為、他県の講師依頼はせず、県内の技師のみで開催としました。登録者数に比べて、参加人数は少なくなりましたが、現地開催で行っていた時の参加人数も70人前後であったことを考えると、参加者も多かったのではないかと思います。

今後の研究会開催においては、当面は完全web開催、ハイブリット開催のいずれかで実施になります。その都度、状況を考慮し安全面に気を付けながら開催形式を考え、会の企画をしたいと思えます。

令和3年度 乳腺画像分科会 活動報告

福島県立医科大学附属病院

本田 清子

○第20回福島県乳腺画像研究会

開催日時：令和3年9月4日（土）

14：00～16：30

開催場所：Web開催

参加人数：75名

【研究会内容】

<情報提供>

「環状型MRI造影剤ガドテル酸メグルミン「GE」

GEヘルスケアファーマ(株) 小西 和男

<研究会>

座長 総合南東北病院 國分 美加

① 技術紹介

「乳腺MR撮像の基礎と最新情報提供」

GEヘルスケア・ジャパン(株)

MRアプリケーションスペシャリスト

盛 史範 先生

② 施設紹介

「当院における造影乳房MRI検査」

一般財団法人太田綜合病院附属

太田西ノ内病院

柳沼 孝寿 先生

公益財団法人 星綜合病院

平岡 陽子 先生

<特別講演>

座長 福島県立医科大学附属病院 本田 清子

「遺伝性乳癌の臨床」

公益財団法人 星綜合病院

総長院長 野水 整 先生

今回は初めてのWeb開催だったが、福島県外からの参加もあったため多くの参加者があった。

乳房MRIを取り上げ基礎から最新情報までご講演いただき、また施設紹介もご講演いただいたので乳房MRI検査初心者にも大変参考になる内容だった。

特別講演では野水先生にご講演いただき、遺伝性乳癌の診断方法や診断されてからフォローアップ検査内容についてご講演いただいた。

○2021年度 会津乳房撮影研究会

開催日時：令和3年12月21日（火）

18：15～

開催場所：Web開催

【研究会内容】

1. 最新機種マンモトームリボルブの特徴や従来品のマンモトームとの違い

デヴィコアメディカルジャパン株式会社

渡邊 一也 先生

2. ステレオガイド下マンモトームの手順について

会津中央病院 鈴木みゆき 先生

3. ステレオガイド下マンモトームの症例紹介

会津中央病院 森 美優 先生

○各自治体での乳癌検診、読影会への協力

各自治体にて開催される、乳がん検診読影会で読影補助を行った。

来年度も、新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮しながら研究会の開催方法など検討していきたい。

令和3年度 放射線治療分科会 活動報告

福島県立医科大学

加藤 貴弘

○第45回福島県放射線治療技術研究会（予定）

開催日時：令和4年3月12日（土）

12：55～17：30

開催場所：ZoomによるWeb開催

開催内容：

特別講演及び会員話題提供セッション等を予定

今年度は対面での開催を当初模索したが、結局見通しが立たず、最終的に年度末の1回の開催に留まった。

研究会開催とは別に体制の刷新に向けて世話人間で協議を進めている。本会のさらなる発展に向けて体制の若返りを図る方向で現在調整中である。

令和3年度 MRI分科会 活動報告

福島県立医科大学附属病院

清野 真也

令和3年8月7日（土）第20回福島県MRI技術研究会を14時から17時の3時間にわたり、昨年度予定していたプログラムを一部変更してオンラインにて開催した。県外への広報は行わなかったが、県外からも多数の方が参加され、参加者数は130名であった。

プログラムは以下の通りである。

第20回福島県MRI技術研究会

司会・進行：竹田総合病院 二瓶 秀明

1：情報提供

座長：公立藤田総合病院 鈴木 圭一

1-1：新しいMRIインジェクタについて

バイエル薬品(株) 岡崎 瑛一

1-2：Canon社製1.5T MRIに搭載されたDeep learningの使用経験

星総合病院 阿部 祐也

1-3：特殊撮像法の紹介“MREnterography”

総合南東北病院 吉田 拓磨

2：技術解説 ～MRIの特性を評価する術～

座長：白河厚生総合病院 吉田 友彦

2-1：SNRと均一性の測定

福島県立医科大学附属病院 石川 寛延

2-2：脂肪抑制能の評価

北福島医療センター 高橋 悠馬

3：特別講演

座長：福島県立医科大学附属病院 清野 真也

1「実機で学ぶMRI撮像技術；画像診断への応用」

講師：新潟大学医歯学総合病院

診療支援部 放射線部門

齋藤 宏明 先生

令和3年度 CT分科会 活動報告

福島県立医科大学附属病院

村上 克彦

・令和2年度第5回CTテクニカルセミナー 世話人会

日時：令和3年2月9日（火）

場所：Zoom WEBミーティング

【議事】第3回福島県CTテクニカルセミナー 開催

形式、プログラム内容等について

- ・現状を鑑みWEB開催とする。
- ・録画ではなくライブで開催する。
- ・3時間を目安にプログラムをスリム化する。
- ・会費は徴収せず無料とする。

・令和3年度第6回CTテクニカルセミナー 世話人会

日時：令和3年6月12日（土）

場所：Zoom WEBミーティング

【議事1】令和2年度会計報告

【議事2】第3回CTテクニカルセミナーについて

【議事3】次年度の研究会について

【議事4】その他

・第3回福島県CTテクニカルセミナー講演会

日時：令和3年6月15日（火）

場所：Zoom Webinar

テーマ：「撮影テクニック ～押さえておきたい、ちょっとしたコツ～」

【情報提供】

「非イオン性造影剤イオパークの安全性情報」

富士製薬工業株式会社

【CTビギナーズセミナー】

先輩が教えるComputed Tomography

「装置編」エネルギーについて

星総合病院

澁井 政人

「臨床編」CT造影理論の基礎

南相馬市立総合病院

草野 雅人

【シンポジウム】

「良い検査のためのエッセンス」

座長：会津医療センター病院

菅野 朋史

「息止め不良」

公立藤田総合病院

浅野佳寿雄

「体位とれない」

福島県立医科大学附属病院

佐川 友哉

「たくさんの依頼部位」

太田西ノ内病院

深澤 秀人

「腎機能」

竹田総合病院

太田 伸矢

【特別講演】

座長：太田西ノ内病院

大原 亮平

「～プロフェッショナル仕事の流儀

～ルーチンを“魅せる”画像に強化する整形的撮影技術」

富山労災病院

野水 敏行 先生

Covid-19の感染状況を考慮しZoom Webinarを用いて研究会を開催した。シンポジウムの内容が臨床現場での工夫を扱ったため、翌日から職場で活かされると好評であった。また、特別講演の野水先生も、最近オーダーが増えている整形領域についての講演であり、研究会後のアンケートでも「大変勉強になった。」等多くのコメントをいただき好評であった。

本会は参加者249名と盛況のうちに幕を閉じた。

・令和3年度第7回CTテクニカルセミナー 世話人会

日時：令和4年2月18日（金）

場所：Zoom WEBミーティング

【議事1】第4回CTテクニカルセミナーの内容について

【議事2】その他

次回の第4回福島県CTテクニカルセミナーは、開催日時：2022年6月11日（土）
場 所：コラッセ 多目的ホール
での開催を目指して準備を行う事となった。

令和3年度 会津地区協議会 事業報告

会津地区協議会委員長 鈴木 雅博

・令和3年度 公益社団法人福島県診療放射線技師会会津地区協議会全体会

日時：令和3年4月25日（日）

9時30分～10時00分

場所：ホテル ニューパレス 3階 山桜

10名出席 委任状66名

○公益社団法人福島県診療放射線技師会
会津地区協議会全体会

18時15分～19時30分

開催形式：Web開催

39名参加（会員36名）

演題：若手技師へ向けたフレッシュセミナー

1. 一般撮影「画像からその後の診療へ～股関節領域をピックアップして～」

会津中央病院 渡邊 晶 氏

2. 「頭部CT～出血性脳卒中を中心に～」

会津医療センター 吉田 賢 氏

3. 「頭部MRI～虚血性脳卒中について～」

竹田総合病院 早瀬 堯也 氏

・第1回 会津地区協議会委員会

日時：令和3年7月20日（火）

18時15分～19時30分

場所：竹田総合病院 総合医療センター1階

竹田ホール 及び Web

16名参加（会場参加：8名、Web参加：8名）

議題1. 令和3年度会津地区協議会

委員自己紹介

2. 県理事会報告

3. 県委員会報告

4. 令和3年度事業について

5. その他

・2021年度 会津乳房撮影研究会

日時：令和3年12月21日（火）

18時15分～19時15分

開催形式：Web開催

18名参加（会員16名）

題目

1. 最新機種マンモトームリボルブの特徴や従来品のマンモトームとの違い

デヴィコアメディカルジャパン株式会社

渡邊 一也 氏

2. ステレオガイド下マンモトームの手順について

会津中央病院 鈴木みゆき 氏

3. ステレオガイド下マンモトームの症例紹介

会津中央病院 森 美優 氏

・第2回 会津地区協議会委員会

日時：令和3年9月28日（火）

18時15分～19時00分

場所：竹田総合病院 総合医療センター1階

竹田ホール 及び Web

12名参加（会場参加：7名、Web参加：5名）

議題1. 県理事会報告

2. 県委員会報告

3. 地区協議会各委員会報告

4. 令和3年度事業について

5. その他

～今後の予定～

・第3回 会津地区協議会委員会

日時：令和4年3月1日（火）

18時15分～

場所：竹田総合病院 総合医療センター2階

画像診断センター カンファレンス室

及び Web

会津地区協議会委員、出席見込み

・第103回会津画像研究会

日時：令和3年11月25日（木）

- 議題1. 県理事会報告
- 2. 県委員会報告
- 3. 地区協議会各委員会報告
- 4. 令和4年度地区協議会全体会について
 - ・令和4年度地区協議会事業計画（案）
について
 - ・令和4年度地区協議会収支予算（案）
について
- 5. 県定時総会について
- 6. その他

・第104回会津画像研究会

日時：令和4年3月中旬～下旬開催予定

令和3年度 県南地区協議会 事業報告

県南地区協議会委員長 鍵谷 勝

○県南地区協議会全大会（地区総会）

日 時：2021年5月14日（金）20：00～
場 所：一般財団法人 脳神経疾患研究所
附属 総合南東北病院
1階 診療放射線技師室

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催となり、運営委員2名による「書面決議書兼委任状」の確認作業となった。

運営委員 総合南東北病院 白井 陽太
総合南東北病院 秋山 俊一

県南地区会員数210名の内、参加者8名、委任状164名、計182名による決議。

第1号から第6号議案について賛成多数により全て承認された。

○県南サマーセミナー

日 時：2021年8月21日（土）14：00～15：30
場 所：Web開催
参加者：42名

1. メーカー話題提供（14：05～14：30）
『AI技術を活用した画像診断支援機能～進化した読影ビューワ SAI viewer～』
富士フィルムメディカル株式会社
中村 健吾 様

2. 講演1（14：30～14：50）
『院内クラスターを経験して』
太田西ノ内病院 放射線部 大原 亮平

3. 講演2（15：00～15：30）
『診療放射線技師法改正 業務拡大について』
福島県診療放射線技師会会長
新里 昌一 様

○県南地区新年勉強会

日 時：2022年1月29日（土）14：00～16：00
場 所：Web開催
参加者：会員30名、非会員16名、
一般（賛助会員含む）14名

・メーカー話題提供（14：05～14：45）
【CT・MRIを中心に最新のトピックス】

キヤノンメディカルシステムズ株式会社
GEヘルスケア・ジャパン株式会社
シーメンスヘルスケア株式会社
フィリップス・ジャパン株式会社

・各施設より使用経験（15：00～15：30）

『SOMATOM Driveの使用経験』
白河厚生総合病院 村山 滉治
『Revolution CTの使用経験』
総合南東北病院 白井 陽太 様
『Vantage Orian 1.5T MRIの使用経験』
星総合病院 横山 静羅 様

○郡山市健康福祉「ファミリーフェスタ2021」

新型コロナウイルス対策によりWeb開催
動画配信となった参加見送り。

○ピンクリボンin郡山2021

日 時：2021年10月24日（日）
場 所：ポラリス保健看護学院及び星総合病院
Web開催された。一般参加者80名。

○第1回 県南地区協議会委員会

日 時：2021年6月30日（水）午後6時
場 所：南東北がん陽子線治療センター
2階会議室
役員のみ集合、Webによるハイブリッド開催

○第2回 県南地区協議会委員会

日 時：2021年12月1日（水）午後6時30分
場 所：南東北がん陽子線治療センター
2階会議室
役員のみ集合、Webによるハイブリッド開催

○第3回 県南地区協議会委員会

日 時：2022年3月24日（木）午後6時30分
場 所：南東北医療クリニック、画像処理室
役員のみ集合、Webによるハイブリッド開催

令和3年度 県北地区協議会 事業報告

県北地区協議会委員長 池田 正光

○2021年度県北地区協議会全体会（紙面上での開催）

日時：2021年4月23日（金）

18時00分～18時30分

場所：福島県立医科大学附属病院
放射線部カンファランス室

「議決権行使書兼委任状」151名

会員数は186名であり、過半数に達しているため「全体会」は成立。福島医大の金澤崇史さん、深谷岳史さんが運営委員となり「委任状の確認作業」を行った。

第1号議案～第5号議案まで、すべて「賛成」可決となった。

座長：二本松病院

須川診療所

野田クリニック

三浦 勉

斎藤 聖二

小野 祐一

【講演内容】

・「AI技術を活用した画像診断支援機能」

FUJIFILM

中村 健吾 様

・「タスクシフティングによる業務拡大について」
福島県診療放射線技師会 新里 昌一 会長

・「CT装置の現状」

～なかなか聞けない？ エントリーモデルのはなし～

キヤノンメディカルシステムズ(株)

渡辺 奏 様

シーメンスヘルスケア(株)

鈴木 和明 様

○第1回県北地区協議会委員会（リモート開催）

日時：2021年10月5日（火）17時30分～18時

- ・「県北たより」の発行について
- ・「新年勉強会」について
- ・告示研修について
- ・会費納入のお願い

○県北地区協議会「地区たより」の発行

第1号 2021年7月21日 発行

- ・県北地区協議会全体会の報告
- ・新委員の紹介
- ・担当委員会委員の紹介
- ・新人紹介

・夏季勉強会のお知らせ

第2号 2021年1月5日 発行

- ・「業務拡大への施設対応に関するアンケート」の結果報告
- ・技師紹介
- ・令和3年度学術大会のお知らせ
- ・県北冬季勉強会の案内

○2021年県北地区協議会夏季勉強会(Web開催)

日時：8月28日（土）14時30分～16時

（会員39名、非会員3名 参加）

進行：福島赤十字病院

相澤 浩樹

座長：二本松病院

三浦 勉

【講演内容】

・「水晶体線量限度変更に係る法令改正および個人線量計の取り扱いについて」

(株)千代田テクノ

狩野 好延 様

・「X線動画画像対応 FPD Aero DR fine motion 一般撮影に関する最新情報のご紹介」

コニカミノルタジャパン(株) 弦桐 聡 様

○2022年県北地区協議会冬季勉強会(Web開催)

日時：1月22日（土）14時～16時

（会員40名、非会員4名 参加）

進行：北福島医療センター

松井 大樹

令和3年度 浜通り地区協議会 事業報告

浜通り地区協議会委員長 名城 敦

○浜通り地区協議会全体会

書面決議にて開催となる

日時：令和3年4月21日（水）18：00

場所：南相馬市総合病院

議事：令和2年度事業報告について
令和2年度会計報告について
令和2年度会計チェック報告について
令和3年度事業報告案について
令和3年度予算案について
令和3・4年度役員案について

総会員数 174名

委任状 144名

第1号から第3号までの報告事項

第4号から第6号までの提案事項 全て承認

○浜通り地区協議会委員会

第1回 令和3年5月20日（木）

Web会議

1. 令和3年度浜通り地区協議会
全体会書面表決結果報告
2. 浜通り地区及び県の役割分担について
3. 令和3年度事業計画
4. その他

第2回 令和3年6月24日（木）

Web会議

1. 令和3年度学術大会・夏季研修会について
2. その他

第3回 令和3年7月29日（木）

Web会議

1. 令和3年度学術大会について
2. 地区勉強会について
3. その他

第4回 令和4年2月28日（月）

Web会議

1. 会員へのメール配信について
2. 令和3年度全大会について
3. 県全体会運営委員・選挙管理委員選出に
ついて
4. 令和5・6年浜通り地区協議会委員体
制・県理事について

5. 2022年福島県告示研修について

6. その他

第5回 令和4年3月31日（木）

Web会議

1. 令和3年度全体会について
2. 令和4年度第1回委員会開催予定
3. 令和4年度学術大会・夏季研修会について
4. 令和5・6年度役員改選について
5. その他

○浜通り地区学術大会（Web開催）

日時：令和3年8月26日（木）18：30

演題

注腸X線検査における散乱線分布図の作成

いわき市医療センター 秋田 貴宏
鎖骨プレートに対する金属アーチファクト低
減アルゴリズムとDual Energy CTの有用性
の検討

いわき市医療センター 今泉 虹輝
Cone Beam CTにおけるSMARTの有用性
について

南相馬市立総合病院 小山 達也
骨シンチに代わる前立腺癌の骨転移検出のた
めのDWIBSプロトコルの検討

常磐病院 富山 弘樹
AiCEを用いた心筋T1mapの初期検討

かしま病院 阿部公志郎

事前登録者数：57名 参加者数：50名

参加実績確認数：46名（非会員：1名）

○地区勉強会

第35回いわき地区画像勉強会（Web開催）

日時：令和3年4月2日 18：00～

いわき市内各施設におけるCOVID-19の対応
について

1. 養成会 かしま病院 西山 修平
2. ときわ会 常磐病院 小野 大介
3. 福島労災病院 石井 裕
4. いわき市医療センター 折笠 秀樹

参加者数：32名

相双地区勉強会 Covid-19感染症対策により中止

第10回公益社団法人福島県診療放射線技師会 定時総会議事録

1. 開催日時：令和3年5月29日
10時00分～11時00分
開催場所：福島市光が丘1
福島県立医科大学附属病院放射線部
カンファランス室
会員総数：661名
出席者数：515名（委任状出席者506名）
1. 総会成立：総会運営委員長佐藤勝正より、会員総数661名中515名の出席があり定款17条の定数を充たすので有用に成立している旨報告された。
1. 議 長
議長に笹木 毅と斎藤聖二が選出され、満場一致により承認された。
議長は、本会は適法に成立したので開会することを宣し、直ちに議事に入った。
1. 議 題
- 第1号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師会令和2年度決算報告について
賛成 515名 修正 0名 否決 0名
承認された
- 第2号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師会令和3年度事業計画案について
賛成 515名 修正 0名 否決 0名
承認された
- 第3号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師会令和3年度予算案について
賛成 515名 修正 0名 否決 0名
承認された
- 第4号議案 定款改定（事務所所在地の移動）について
定款2条 この法人は、主たる事務所を福島県福島市に置く。（変更前）
福島県福島市蓬萊町七丁目13番5号
定款2条 この法人は主たる事務所を福島県郡山市に置く。（変更後）
福島県郡山市大槻町字原ノ町3番1に移動
（移転日：令和3年5月29日）
賛成 515名 修正 0名 否決 0名
承認された
- 第5号議案 会員除名について
菅野理紗氏の除名
賛成 515名 修正 0名 否決 0名
承認された
- 第6号議案 令和3－4年度理事・監事の選任について
選挙管理委員長田代雅実より、定款23条に基づく理事・監事の立候補を求めたところ、理事・監事ともに定数以内であった。事前にホームページ上に掲載された立候補者氏名より投票された結果全候補者とも下記の通り賛成多数で承認された。
賛成 510名 修正 1名 否決 0名
無効 4名
- 第7号議案 会長・副会長選出について
選挙管理委員長田代雅実より、当選理事の中から立候補した会長候補者新里昌一、副会長候補者鈴木雅博、同阿部郁明、同佐藤龍一について会員による事前信任投票の結果、下記の通り賛成多数で承認された。
賛成 509名 修正 0名 否決 2名
無効 4名
議長は以下の全役員が席上即時就任を承諾したことを報告した。
理事兼会長候補者新里昌一、理事兼副会長候補者鈴木雅博、同阿部郁明、同佐藤龍一、理事池田正光、同佐藤佳晴、同堀江常満、同名城 敦、同布川真理子、同森谷辰裕、同鍵谷 勝、同石森光一、同菅野修一、同濱端孝彦、同松井大樹、同渡部 仁、

監事齋藤康雄、同高橋宏和 監事高橋宏和は
欠席につき別紙

令和3年6月2日付け就任承諾書を添付し
た。

第8号議案 その他

会員からの質疑があり掲載する

- ① 会員の除名について、具体的な事例を説明
願いたい。何故か？非常有史以来と思いま
すので文書等で願いたい。会員全体に知ら
せるべきと思う。

回答：会員は定款第7条により会費納入義務が
あります。しかし3年間会費納入を怠り、会費
未納につき督促状を毎回送付しましたが支払わ
れず、定款第9条2により弁明の機会を与える
ために令和3年4月16日を期限とした弁明の機
会付与通知書を送付しましたが、期限までに連
絡もないことより定款9条規程の「総会におい
て、総正会員数の半数以上で総正会員の議決権
の3分の2以上の同意によりこれを除名するこ
とができる」が適用されました。除名しないと、
毎年その会費分が技師会の負債として増え続け
る事になります。

- ② 総会のDVDは、各施設1枚で良いと思いま
す。会報も個人個人に配っていますが、何
院が活用しているのでしょうか？不要な出費
なら見直す必要があると思います。

回答：本来なら会員1名に総会議案書1冊を配
布するべきですが、大きな支出があるためCD化

して配布しています。会員各自に配布する事は
義務であり無駄な出費とは考えておりません。
ぜひ会員の皆さんには、CDの総会議案書を読ん
でいただきたいと思います。

- ③ 協議会で行うオンライン会議出席者に対し
て、何らかの名目を付け費用負担をお願い
します。

回答：今までは技術学会等でもオンラインの費
用を認めていませんでした。会計事務所も同様
の見解でしたので、県技師会としても費用を設
けませんでした。最近、技術学会やJARTでも、
議事録に名前記載がある者には支給するよう
に変わりました。県技師会でも理事会でも良く検
討し、今後会計事務所と相談してみます。改め
て回答させていただきます。

- ④ 各協議会で行う委員会会議へのWeb参加
者は、労働手当が支給されていない現状
であるが各出席者は責任感を持ち、家事部
合等を工面している事を加味し、お手当を
支給したほうが良いと考えます。ご検討下
さい。

回答：③と重複するご質問なので、③と同様の
回答になります。

他には意見等の発言はなく、議長は以上を
もって本日の議事を終了した旨を述べ、11時00
分閉会を宣言した。

以上

令和3年度 第1回理事会議事録

1. 開催日時：令和3年5月29日10時20分～
11時00分

開催方法：ハイブリッド開催

(電磁的開催及びWeb会議補助的併用)

出席理事：新里昌一、鈴木雅博、阿部郁明、
佐藤龍一、佐藤佳晴、堀江常満、
菅野修一、池田正光、鍵谷 勝、
石森光一、名城 敦、森谷辰裕、
濱端孝彦、松井大樹、渡部 仁

【電磁的参加】布川真理子

出席監事：齋藤康雄

欠席監事：高橋宏和

2. 議 長：理事新里昌一は、選ばれて議長に
なった。

3. 議 事

議長は、今般代表理事新里昌一は理事の任期
満了により、代表理事の資格を喪失し退任する
ことになるので、改めて代表理事・会長を選定
したい旨を述べた。

次いで議長は、本日の社員総会において予め

立候補した代表理事・会長候補者新里昌一、副会長候補者鈴木雅博、同阿部郁明、同佐藤龍一を選出した旨を述べ、慎重審議の結果、全員一致をもって次の通り選定した。(電磁的承認を含む)

代表理事・会長	新里昌一
副会長	鈴木雅博
副会長	阿部郁明
副会長	佐藤龍一

上記被選定者は各自席上(Web)就任を承諾した。

4. 協議事項

新里会長より令和3年度、会長・副会長・理事及び各地区協議会選出委員それぞれの役割分担が提案された。

理事全員賛成し承認された。

以上

令和3年度 第2回理事会議事録

日 時：令和3年7月16日(金)
17時00分～18時50分(Web会議)

開催方法：ハイブリッド開催
(電磁的開催及びWeb会議補助的併用)

出席理事：新里昌一(会長)、鈴木雅博(副会長)、阿部郁明(副会長)、佐藤龍一(副会長)、堀江常満、石森光一、池田正光、佐藤佳晴、松井大樹、菅野修一、濱端孝彦、森谷辰裕、渡部 仁、布川真理子、名城 敦

【電磁的参加】鍵谷 勝

出席監事：齋藤康雄

指名参加：遊佐 烈(事務局長)、久保 均(特別事務職)

欠席監事：高橋宏和

議事記録：県南地区(順序：県南→県北→会津→浜)

1. 会長挨拶

新体制となって2回目の理事会である。協議内容が多岐にわたり、新型コロナウイルス感染拡大の懸念は残るが、可能な限り事業を行っていきたい。

2. 議 事

1) 令和3年度事業計画について

①各委員会等の事業計画について

○災害対策委員会

委員会は開催していないが、例年通りに進めたい。

「福島県原子力災害医療対策協議会」の委員に菅野修一理事を推薦した。

○ネットワーク委員会

委員会を開催し、メーリングリストの管理、活動内容の確認を行った。

今年度の予定として12月頃にホスティングサービス更新料(26,000円/年、ドメイン5,000円/年)の支払いがあるので事務局には準備をお願いしたい。

○生涯教育委員会

ファシリテーター養成の人数と各県の内訳が決定した(東北48名、福島県10名(各地区2名、大学2名)。会場地が宮城県に決定した。

9月後半にフレッシュャーズセミナーを開催する予定である。

○学術委員会

6月21日に委員会開催を開催した。

今年度も論文賞1名の申請があったので、審査をお願いしたい。

県学術大会はYouTube開催とし、特別講演、論文賞受賞者の講演等を検討している。

また、各賞の副賞(5000円分クオカードなど)について、検討をお願いしたい。

○調査委員会

令和2年度版の調査委員会報告をHPに掲載する。

令和3～4年度は水晶体を含めた被ばく管理の調査を行う。

○精度管理

非接触放射線測定器（ピラニア）を各地区持ち回りによる測定事業を実施する。

各種サーベイメータの点検校正をお願いしたい。

○財務委員会

未納者リストを確認し、会費納入促進に努める。

各種サーベイメータの点検校正費用を支出する。

○広報編集委員会

委員長欠席により後日報告する。

②研修会・講習会開催案内

引き続き、県技師会ウェブサイトにて公開する。

③その他

特になし

2) 協議事項

①旅費規程について

Web会議であっても拘束用務として通信雑費のみを支給する。なお、議事録に出席者として報告された方のみを支給する。通信雑費の支給について旅費規程を改訂する。

会議1回につき1000円が良いのではという意見があった。支払方法を簡便にし、振込み手数料を抑えられるようにしたい。

→全会一致で了承された。

②分科会助成について再確認

助成金を支給された場合、収支報告の義務を負っていた。今後も報告しない場合は支給しないこととする。分科会は技師会の下部組織で、事業報告及び収支報告提出義務を負うのではないかと、意見が出された。

会長：年々分科会の位置づけが変わってきているので、今後は見直しも検討すべきだろう。

→全会一致で了承された。

③ファシリテーター養成・タスクシフトについて

ファシリテーター養成について、保健科学部の久保先生を中心に講師陣を編成し福島県で開催したいと申し出ていたが、宮城県で行うことが決定した。

当会からは新里会長と堀江生涯教育委員長が参加する。今後、福島県で開催する講習会では

医師と看護師に講師依頼し対応してもらうことが必要となる。

来週月曜日（7/19）に福島県立医大の伊藤教授と打ち合わせを行う予定である。

JARTの動向を見ながら進めてゆく。

→全会一致で承認された。

④県内Web開催でのJARTへのポイント申請

事前申請すれば可能であるが、出席要件を満たすための条件設定が必要になるのではないかと。他の分科会等では、接続ログから出席時間を算出し、全体の70%以上であれば出席としている。ただし、接続状態のまま席を離れた場合の確認が困難となる。途中でキーワードを出して、アンケートに書いてもらって確認する方法がある。この場合、終了直後に記入してもらう方法がよい。

JARTではWeb開催での参加証明に関する明確な判断方法が示されていない。昨年の県学術大会では対象にしていなかった。船水理事を通してJARTでの出席認定要件を確認し、今後のWeb開催における技師会イベントの参加証明要件を明確化する。

→全会一致で承認。

⑤各申請書類の更新について（県HP掲載用）

石森理事に訂正等を依頼した。承認枠（決裁者）を「会長」、「財務理事」、「事務局長」の3つとした。また、2枚に分かれていた様式を1枚にまとめた。

その他細かい訂正を行い、確認後、県HPに掲載することとなった。

→全会一致で了承された。

⑥Webex法人版の申請・規程について

Web会議開催時の申請書を作成した。運用規程も作成した。

申請書の受付を誰が担当するか決める必要がある。管理者が会長なので、ネットワーク委員会が管理するのがよいのではないかと。委員に役割分担できる。

Webexの予約状況をカレンダー表示すると、空き状況が見やすい。Googleカレンダーは法人版のみが対応可能で、Outlookも可能である。

運用開始時は、空いていれば自由に予約するはずだったが、現在は会長に申告して予約可能

であれば理事が予約する運用としている。申請者が理事とは限らないので、運用方法を決めた方がよい。

→継続審議とした。

⑦その他

○論文賞について

昨年度まで年間に発表した論文についてすべて受賞の対象としていたが、今年度より年に何本発表しても1人につき1回とする。副賞は金券ではないもの検討する。

年間に複数の論文を発表した場合、受賞対象の論文はすべてとし、特定の論文を指定しない。

表彰規程又は表彰規程の内規の見直しが必要になる。(学術委員会が担当する。)

県技師会HP上の学術大会の項目内容に関して最新状況を提示する事。その対応に関しては学術委員とネットワーク委員に一任する。

→全会一致で了承された。

- ・精度管理委員会より測定器の点検校正について

非接触放射線測定器(ピラニア)の点検校正は令和2年度に実施した。

電離箱式サーベイメータの校正が切れるのは4台中3台である。

1台につき60,000円前後の費用を要する。

NaIシンチレーションサーベイメータは、浜通り地区と県南地区のものが切れるので今年度中をお願いしたい。

→財務担当理事の了承を得た。

- ・総会資料の作成について

総会資料のWordファイルを共有して完成させる方法を検討したい。

ファイル内容が先祖返りすることを防ぎつつ、必要な箇所のみ修正し上書き保存できるようにしたい。

石森理事が情報収集し調査を行うこととした。

→全会一致で了承された。

- ・ネットワーク委員会より精度管理委員会へお願い

ピラニアの各地区ローテーション表を令和3年度分が完成したら、県HPに掲載した

いので作成をお願いする。

→精度管理委員長の了承を得た。

- ・Webexの勉強会利用について

Webexが勉強会で使用できることが調査して分かった。設定時のテンプレートを作成したのでそれを利用して登録を行う。Zoomと同じように参加者の事前登録も可能である。この機能を使用するとなると設定時の登録フォームの情報が必要となる。この情報はWebexに登録されているGoogleアドレスにメールで送信されており、メール内容を見ようとするとセキュリティの問題でGoogleアドレスに紐付けされているコセキ担当者のロック解除がないと見ることができない。この問題を解消するためコセキの担当者と権限移行などの作業を進めていく。それとあわせてマニュアルを整備していきたい。

→全会一致で了承された。

- ・事務所拡充について

什器の購入(椅子や机など)、モニタやネット環境の整備を進めている。

研修センターとしているので、研修ができるようにしたい。

環境が整ってから事務職員(パート)を採用したい。

1階を研修室、2階を事務室にしたほうがよいのではという意見がでた。

アクセスポイント30人まで必要なのか。開催回数、使用頻度も考慮も判断し決定する。

後日、遊佐事務局長と石森理事が事務所を下見することとした。

→全会一致で了承された。

3) 報告ほか

①JART定時総会について

別紙資料の通り

②1) 日放技理事会等・ファシリテーター養成について説明

別紙資料のとおり

2) 東北放射線関連

別紙資料のとおり

③第11回東北放射線医療技術学術大会について

大会長挨拶文、プログラム作成中である。

④その他

- ・「福島県原子力防災通信連絡訓練」が7月15日に実施された。後日結果報告がある。
- ・「メディカルクリエーションふくしま2021WEB」のメインイベントが10月28日から29日にかけて開催される。また後援依頼があり、例年通り承諾する。
- ・「日本プライマリ・ケア連合学 第11回東北ブロック支部学術集会」の後援を承諾した。開

催日は10月2日から3日である。

- ・HP掲載の事業報告書等について
福島県の立ち入り検査の際、ディスクロージャーの観点からすべての財務諸表を公開するように指摘された。情報公開は総会議事の1～5までで、財務諸表については総会議事録と同じものを掲載し公開する。

以上

令和3年度 第3回理事会議事録

日 時：令和3年9月17日（金）

17時00分～18時15分（Web会議）

開催方法：ハイブリッド開催

（電磁的開催及びWeb会議補助的併用）

出席理事：新里昌一（会長）、鈴木雅博（副会長）、阿部郁明（副会長）、佐藤龍一（副会長）、堀江常満、石森光一、池田正光、佐藤佳晴、松井大樹、鍵谷 勝、菅野修一、濱端孝彦、森谷辰裕、渡部 仁、名城 敦、布川真理子

出席監事：齋藤康雄

指名参加：遊佐 烈（事務局長）、久保 均（特別事務職）

欠席監事：高橋宏和

議事記録：県北地区

1. 議 事

1) 令和3年度事業計画について

各委員会等の事業計画について

○災害対策委員会（菅野委員長）

- ・9月23日（木）に「令和3年度甲状腺簡易測定研修会」（福島県立医科大学にて）が行われ、6名参加予定となっている。
- ・県より「福島県原子力災害医療対策協議会」の委員に菅野委員長が委嘱され、委嘱状が届いた。
- ・防災訓練で着用するビブスを購入したいと考えている。（ビブスについては県に購入していただいたが、それは県で管理してい

るため、手元にはなく訓練などで自由に使うことができない。原子力防災訓練やイベントで使用できるよう、県技師会の予算で購入して頂けるか今回の理事会に提案する）

○学術委員会（松井委員長）

- ・学術委員会で持っている備品を再確認し一覧にしたい。
- ・学術表彰細則に関して、案という形で提出させて頂いた。一通り目を通していただき、問題点等があれば学術委員までご連絡をお願いしたい。
- ・学術大会に関しては、今年中に形にできるよう進めていきたい。

○ネットワーク委員会（石森委員長）

- ・事務所内のネットワーク接続設定を行わせて頂いた。建物の中の無線LANの電源を入れればつながる形になっているが、接続するためのSSIDとパスワードは、デフォルトではなく県技師会独自のものに代えさせて頂いた。事務所に於いて皆が使えるようにマニュアルを作成する。
- ・Webexのスケジュール管理については、今のところ第3者がカレンダー上の情報から入ってくるような形になっているので、その形式で出来るかを模索している。それに合わせ、Webexを使ってセミナーや勉強会等で使用できるようマニュアルを作成する。→完成後、理事会の皆様を確認して頂きご了承いただきたい。

○調査委員会（佐藤委員長）

- ・前年度の調査委員会報告をHP上に掲載させて頂いたが、一部訂正があったため、ネットワーク委員に訂正をお願いする。
- ・本年度の活動は、調査項目として「水晶体を含めた被ばくの管理」について調査する予定である。現在、資料を集めながら調査項目を検討中である。

○広報編集委員会（鍵谷委員長）

- ・「放技ニュース」について予定通り発行している。
- ・「記念誌」発行について今後、会長とご相談しながら進めていきたい。

（新里会長）歴代の会長に依頼し文章を書いて頂いたりしながら、今年度中に作成をお願いしたい。

（石森委員長）各委員会の申請書関係を、今回HP上にアップデートしたので、「放技ニュース」にてアナウンス記事をお願いしたい。→次回の「放技ニュース」に掲載とする。

○生涯教育委員会（堀江委員長）

- ・9月に東北大で行われる予定であった「ファシリテータ養成講座」が延期になり、11・12月ぐらいに開催の予定であるが、まだ確定していない。ファシリテータ養成の参加予定者10名については、そのままの人選で対応としたい。
- ・フレッシューズセミナーの開催は、来月のTCRTの前の10月10日か17日を予定している。演者が確定次第、ご案内を今週末に出したいと考えている。

（新里会長）新人の方がおりましたら、ぜひ参加するように各職場でお声がけをお願いしたい。

（鈴木副会長）ファシリテーター研修が年内に開催できたとして、一般の「告示研修」は年度内に開催は可能か。

（堀江委員長）日放技からの指示がないので今のところわからない状況である。全国のファシリテーター研修が終わらないと開催出来ないのか、それとも東北地域（各県）の研修が終わってれば開催できるのか不明の為、日放技に確認させて頂く。

○表彰委員会（遊佐事務局長）

- ・勤続50年表彰について、対象者は2名→大坊元二さん（県南）、渡部源五さん（浜通）
- ・勤続30年表彰について、対象者は6名（書類につきましては日放技には提出済み）
- ・福島県から、毎年「県知事表彰」の推薦をあげてほしいという依頼文書が来ている。今回は、菅野和之さんを、来年の知事表彰の対象という事で、今進めている。

○財務委員会（阿部副会長）

- ・会費納入状況について、未納者が令和2年度13名、令和3年度が217名である。9月末までが納期になっているため、各地区の理事の皆様「会費納入のお声がけ」ご協力を頂きたい。未納者リストもアップしているためご確認願いたい。
- ・予算の執行状況につきましては資料をご覧頂きたい。

2) 協議事項

①県内Web開催でのJARTへのポイント申請について

- ・素案が出来ていない。

→継続審議とした

②Webex法人版の申請・規程について（継続審議）

- ・ネットワーク委員会にてマニュアルを作成中である。今後は広報委員会を通じて周知する。

→全会一致で承認された

③各種申請書類を更新について（県HP掲載用：再確認）

ネットワーク委員会にて利用申請書はこれから作成する。今後は広報委員会を通じて周知する。

→全会一致で承認された

④Web会議での通信雑費について

福島県技師会の会計士の見解はNGである。JARTの見解は社会通念上受け入れられると見解が分かっている。

（斎藤監事）旅費規程を改訂してはどうか。旅費規程と通信雑費は別である。

本質的な結果として前回の理事会にて全会一致である。

→全会一致で承認された

⑤「第3回福島・宮城呼吸療法セミナーへの名義

後援」について

→全会一致で承認された

⑥JART会費未納除籍者に対する債務回収（委託）アンケートについて

債務回収に関してアンケート回答済。債務回収の委託には異議なし

→全会一致で承認された

⑦その他

・学術表彰細則（案）について

→継続審議とした

・来年6月の「県定時総会」会津開催に関して規模をどの程度で行うか。

（新里会長）どのような状況か今からの予想は難しく紙面上にて検討する。

→継続審議とした

・災害対策委員会の案件 ビブス購入に関してビブスは1着3,000円程度を10～15着程度で検討中

（阿部副会長）今年度の使用が無いのであれば正規の予算申請として来年度に回してはどうか。

→全会一致で承認された

3) 報告ほか

①

1) 日放技理事会・ファシリテーター養成について

（新里会長）日放技理事会は開かれていない。ファシリテーター養成については11月頃に延期になった。政治、選挙の話があったが県技師会としては対応しない。

2) 東北地域放射線関連

（新里会長）活動報告を行った。

②第11回東北放射線医療技術学術大会について

（新里会長）演題が73題集まりシンポジウムも集まった。式典、シンポジウムは医大にて大型モニタ6台を使用し、福島医大保健学部で参加・不参加の人とを混在して動画配信をする。一般演題、シンポジウムもoVice（オヴィス）を使用し、仮想空間で行う。一般演題は抄録アプリを使い1ヶ月程度オンデマンドで配信する。抄録アプリは料金がかかるが参加費を取り学会に参加するようにする。懇親会も仮想空間で行い無料とする。その際、余興を考えている。ランチセミナーも予約制にして会場で食事を出す

が、感染対策には徹底する。業者は仮想空間の中で企業展示を行う。業者による広告収入も入ってきている。

③ファシリテーター養成・タスクシフトについて（新里会長）ファシリテーターを養成して告示研修に参加していきたいが、現状は厳しい。静脈穿刺も大事だが、動脈路にインジェクターで造影剤を入れることができるということは重要である。RIの投与は医師のみが出来るということになった。

④その他

・（遊佐事務局長）ニュースを年6回発行しているがコロナ禍で行事が開催できない状態が続いており、記事自体が少ない中で6回出す必要はあるか。作成について負担を軽減し、発行回数を減らしても良いのではないかと。

（鍵谷委員長）検討する。

（新里会長）年度計画では6回だったが理由があれば減らしても良いのではないかと。「記念誌」に力を入れれば理由になる。

・（齋藤監事）理事会議事録の最終版が事務局にしかないのでは共有ホルダに入れて理事間で共有できるようにして欲しい。

（新里会長）対応する。

・（齋藤監事）名誉会員の推戴をR2年度、3年度は行っていないので、叙勲者の名誉会員への推戴を慣例に従い行った方がいいのではないかと。

・（齋藤監事）事務所も出来たので備品の把握がきるように備品台帳の整備をしなければならないのではないかと。

（遊佐事務局長）技師会で買ったものに対しては台帳に記載しているが、各委員会が独自に購入した物品については把握していない。各委員会等で買ったものの洗い出しを行いそれぞれの委員会でリストを作って管理して欲しい。

（新里会長）委員会でリストを作っていたら、理事会で共有したい。

・（齋藤監事）事務所の火災予防や防犯についても検討をしなければならないのではないかと。また、就業規則や契約書などの作成を進め事務職員の募集を早く進めないと今年度中の採

用も難しくなる。
(新里会長)事務員については仕事内容の検討が必要であるため、社会保険労務士に相談して考えたい。事務所の防犯について夜間が心

配である。ダミーカメラ付きセンサーライト等の取り付けはどうか。

→継続審議とした

以上

令和3年度 第4回理事会議事録

日 時：令和3年12月10日（金）
14時00分～16時00分
場 所：福島県診療放射線技師会事務所
(及びWebex使用のハイブリッド開催)
出席理事：新里昌一（会長）、鈴木雅博（副会長）、
阿部郁明（副会長）、堀江常満、池田正光、鍵谷 勝
Web出席：佐藤龍一（副会長）、濱端孝彦、松井大樹、名城 敦、石森光一
出席監事：齋藤康雄
指名参加：遊佐 烈（事務局長）
Web出席：本田清子
欠席理事：佐藤佳晴、菅野修一、森谷辰裕、渡部仁、布川真理子
欠席監事：高橋宏和
議事記録：県南地区

1) 令和3年度事業計画について

①各委員会等の事業計画

○編集広報委員会（鍵谷理事）

放技ニュースの185回発行済み

今年度の会報発行のため各委員長、理事へ投稿依頼を行う予定。

昨年度会報の中で抜けていた令和2年度受賞者名簿の掲載を次回会報に掲載する。

○学術委員会（松井理事）

学術大会演者決定

会員向け 福島県立医科大学感染制御学講座
准教授 仲村 究先生

一般向け 福島県立医科大学放射線災害医療学講座教授 長谷川有史先生

論文講演 大原綜合病院 村松 駿氏

会員向け、一般向け公演の両講師についての謝金を3万円としたい。

昨年度同様にYouTube配信となる。設定に関しコセキ株式会社に依頼予定。

来年度の学術大会の開催形態についての決定と日にちを協議いただきたい。

(継続審議とする)

保管物品に関し足りない分は追記予定。

前回提出していた学術表彰細則を学術委員会で構成しなおし、案として提出。

(Web協議とする)

○災害対策委員会（新里会長から）

菅野委員長からのメール添付の資料参照とのこと。

○ネットワーク委員会（石森理事）

① サーバー更新の手続き完了

・県技師会ホームページ、メーリングリスト活用が継続される。

② 委員会購入物品について

・令和3年12月10日付けでのリストを作成した。パッケージ版のソフトは石森理事が保管しているが、最近購入のソフトはソフトウェア版として販売・ダウンロードされているのでパッケージがない。ホームページ作成ソフトは来年度最新バージョンが出るため、理事会承認後購入したい。

③ 検討事項に関して

・検討1において申請書類の改定を行った。
>レイアウトは変更せず申請日時などを簡易的に入力できるようにした。確認いただきたい。

・検討2. Webexの規約と申請に関して
>Webexの規約と申請用紙を作成。予約等運用ワークフローを提案した。

>会員専用ページに予約状況の確認カレ

ンダーの設置、申し込み申請書のダウンロード、マニュアル掲載ページを作成した。

○生涯教育委員会（堀江理事）

TCRTの福島県以外の参加者の確認を行っている。

○財務委員会（阿部副会長）

- ・収入：約650万円
- ・支出：約300万円（事業費約160万円、管理費約140万円）

事業費の支出が少ないため事業費率が低くなっている。そのため学術関係で使用してほしい。

学術大会演者の謝金については、金額多い場合源泉徴収発行必要になるが3万円程度であれば問題なし。また、YouTube配信の設定費用に関しコセキ株式会社への支払いは予算化されている。

昨年度及び今年度の繰り越しが多くなるのは好ましくない。

会費未納者については、引き続き各地区協議会で回収に向け取り組みをお願いしたい。

除名分は未納者数に入れるべきではない。（除名者分は回収不能扱いで貸し倒れになる）

2) 協議事項

①県内Web開催でのJARTへのポイント申請

生涯教育委員会で試案作成中のため引き続き継続審議とする。

②Webex法人版の使用申し込み、アカウント運用規程について

Webexの使用申し込み、アカウント運用規程が承認された。

③各種申請書類を更新について（県HP掲載用：再確認）

石森理事から提案のあった申請書が承認された。

④Web会議での通信雑費について（新里会長より）

第2回理事会で承認された旅費規程においてWeb会議での通信雑費支給（1000円）については高橋監事より会計的に支給することは不適切とご指導があった。また、手当にしても報酬となることから規約・規程の改定・源泉徴収処理などの必要があり、Web会議参加における手当

等は当面支給しないことにする。

→承認された。

⑤名誉会員の推薦について

令和元年春 今野英麻呂 様

令和元年秋 白川 義廣 様

令和2年春 佐藤 政春 様

令和3年春 平井 和子 様

令和3年春 遊佐 烈 様

各年度叙勲者の名誉会員の推戴についてすべて承認された。

⑥その他

福島県立医大で開催される国際シンポジウムの名義後援について承認された。

告示研修について

① 福島県開催の本年度告示研修日程が承認された。

1回目：令和4年2月12日

2回目：令和4年2月13日

会場：福島県立医科大学保健科学部（駅前キャンパス）

12月13日からの統一講習会を受けた方の予約が開始される。

予約開始時間の確認をJARTに行い報告することとなった。

② ファシリテーター養成を10名が終了した。

最大8名の要員のため、JARTから経費が出ない2名分は研修として費用を福島県技師会で捻出することについては、事業費から一人5,000円+交通費を支出することで、了承された。

③ 医師と看護師の日程次第で決まるが、各地区から来年度の開催希望をとり各地区で一回ほど開催することが承認される。

学術委員会から提案があった今年度の学術大会の会員向け、一般向け公演の両講師の謝金について3万円とすることが提案され、承認された。

来年度の学術大会の開催方法や日程については学術委員会で検討する。

3) 報告他

① 1) 日放技理事会・ファシリテーター養成についての説明等

理事会ファイル中の資料参照のこと

2) 東北地域放射線関連

理事会ファイル中の資料参照のこと

②第11回東北放射線医療技術学術大会について
オンデマンド終了し、1月に会計監査の予定。

③ファシリテーター養成・タスクシフトについて
(堀江理事)

協議事項で協議した。

④事務所の整備状況

集まった理事が状況を確認した。

⑤その他

(新里会長) JARTの放射線機器管理士分科会の地域研修会を2月に県内(郡山市)で予定している。開催にあたり、県内に機器管理部会がないので、管理士部会がお手伝いを行う。

(齋藤監事) 学術表彰について、改正前の内規は学術奨励賞と研究助成金が合わせたものであったが助成金についてはどのようにするのか。

・学術委員会で検討するが、現状維持とする。

リコーリースの案内によると、会費のコンビニ決済の他に様々なスマホアプリの支払方法に対応しているようだが、会員に広報した方が要

のではないかと。

・財務委員会で確認をする。確認次第放技ニュースなどで情報提供する。

(阿部副会長) 事務員を募集することについて再確認した。

(鍵谷理事) 県南地区にて行われる健康フェスタについて、今年度は動画配信による参加であったため技師会としての一般向け動画作成を検討できないか。

・機材はあるが検討することとする。

(齋藤監事) 公益法人化10周年記念誌発行の進捗状況はどうなっているか。

→今年度は記念誌の発行準備となっており来年度発行とする

(濱端理事) 本日のハイブリッド会議に関し、音声聞き取りにくかったため、機材を準備又は補助的な仕組みを検討してほしい。

(新里会長) 事務所のセキュリティーについて今後検討する。

以上

令和3年度 第5回理事会議事録

日 時：令和4年2月25日(金)

14時00分～16時00分

場 所：福島医大附属病院放射線部カンファレンス室(及びWebex使用のハイブリッド開催)

出席理事：新里昌一(会長)、鈴木雅博(副会長)、阿部郁明(副会長)、池田正光、堀江常満

Web出席：佐藤龍一(副会長)、鍵谷勝、菅野修一、渡部 仁、濱端孝彦、石森光一、名城 敦、松井大樹

出席監事：齋藤康雄

指名参加：遊佐 烈(事務局長)、本田清子(会計担当)

Web出席：笹川克博(会計担当)

欠席理事：佐藤佳晴、森谷辰裕、布川真理子

欠席監事：高橋宏和

1) 令和3年度事業計画について

①各委員会等の事業計画

○広報編集委員会

・福島放技ニュース186号(令和4年1月28日発行)

・次回は187号の作成になる。併せて会報(2022年第58号)も作成している。カラー紙面で4月中旬頃発行予定。

・来年度、記念誌の発行をする。(鍵谷委員長)

○学術委員会

・令和3年度福島県診療放射線技師会学術大会

期間、令和4年2月1日から2月14日、web開催(YouTubeによるオンデマンド方式)登録人数122名(県のみ16名、他県3名)視聴回数、一般公開講演249回、論文賞受賞者

講演121回、会員限定講演132回。

- ・次年度開催は福島県立医科大学保健科学部多目的ホールでハイブリッドでの開催を検討。
- ・論文賞、白河厚生総合病院、小室敦司氏の審査を理事会で行う。(松井委員長)
- ・学術委員所有物品一覧と事務所物品一覧を提出し報告。

○生涯教育委員会

- ・令和3年10月17日、フレッシューズセミナーをwebにて開催。
- ・11月27日から28日、東北大学医学部臨床講義棟にて告示研修のためのファシリテータ養成講習会に10名参加(堀江常満、池田正光、樵 勝幸、鈴木雅博、吉田 賢、折笠秀樹、大原亮平、笹木 毅、久保 均、田代雅実(敬称略))。
- ・令和3年度厚生労働省告示第273号研修における実技研修を令和4年2月12日・13日に福島県立医科大学保健科学部にて行う予定であったが中止となった。
- ・来年度の告示研修は各地区と協議の上開催する。
- ・来年度のフレッシューズセミナーは6月から7月に開催したい。(堀江委員長)

○調査委員会

- ・書面で報告、被ばく管理のアンケートを実施する予定でいます。現段階は4月に各施設にアンケートを送付できるようにメールで話し合いながらアンケートを作成中。(佐藤委員長)

○精度管理委員会

- ・森谷辰裕氏欠席のため報告なし。

○災害対策委員会

- ・福島県原子力防災訓練(住民避難訓練)
- ・多数傷病者対応訓練
- ・みちのくアラート2021
全てコロナのため中止、若しくは参加できず。
- ・ビブスのロゴを診療放射線技師にする。(菅野委員長)

○財務委員会

- ・会員状況は資料を参照
- ・複数年未納者の対応、鈴木博紀氏納入の意思確認済み。野崎正博氏連絡不通のため除名対象になる。(本田清子会計担当)

○表彰委員会

- ・知事表彰に菅野和之氏を推薦しており県からの返答待ち。(遊佐事務局長)

②研修会・講習会開催案内

- ・告示研修について後ほど話し合う。(新里会長)

③その他

○今後の理事会についての検討事項。

- ・ハイブリット開催なので14時開催よりも、18時開催がいいのか。
- ・執行委員会を理事会前に開催する。(新里会長)

2) 協議事項

①令和4年度の事業計画案及び予算案

- ・(5)その他目的を達成するために必要な事業、9)年会費納入の推進・電子マネーの導入について、県の技師会のみでなく、県の技師会以外の会員も電子マネーが使えることが分かった。(新里会長)
- ・10)非常勤事務員の雇用により会員サービス向上、の項目も加えた。
- ・(2)診療放射線に関する知識の普及啓もうに関する事業、4)医療体験セミナーでの中学生への診療放射線技師の活動紹介、「ラジエーションはいすくーる」放送のお知らせを県のHPに掲載した。(新里会長)
- ・令和4年度事業計画案は承認された。
- ・令和4年度予算案は、遅れているので後日提示して、メールにて承認をもらう。(新里会長)

②総会運営委員・選挙管理委員の選出

- ・総会運営委員の選出
会津地区協議会 小林 瞳氏
県南地区協議会 大越裕志氏
県北地区協議会 小野祐一氏
浜通り地区協議会 折笠秀樹氏
- ・選挙管理委員の選出は後日決める。(新里会長)

③ 非常勤事務員就業規則

- ・非常勤事務員就業規則、附則1 この規程は、令和3年4月1日より施行する→令和4年4月1日より施行する。に訂正。(遊佐事務局長)

非常勤事務員就業規則は承認された。

④ 県内Web開催でのJARTへのポイント申請（継続審議）

- ・令和4年4月からwebで開催した研究会等もJARTに申請していく。(堀江理事)
- Webex、zoomで開催すると参加した人のログイン時間がリストに残るので、そのデータを生涯教育委員会に提出し確認してもらう。(石森理事) オンデマンド配信の場合は事前登録者を優先的にポイントを付ける。(堀江理事)
- 諸問題はあるが、ポイントシステムを導入する。(新里会長) 承認を得る。

⑤ その他

○令和3年度論文賞に関して

- ・村松 駿（大原総合病院）2演題、小室敦司（白河厚生総合病院）1演題、承認とする。表彰式は令和4年度福島県診療放射線技師会学術大会にて執り行う。(新里会長)

○会費納入について

- ・電子マネーの決済について啓蒙していく。(新里会長)

○会費納入規程の改訂について

- ・公益社団法人 福島県診療放射線技師会 定款 第3章 第5条 (3)満70以上の者で、この法人に正会員として長期間在籍し理事会の承認を得た者
- ・公益社団法人 福島県診療放射線技師会 会費納入規程 第3条(3)終身会員 終身会員の会費は0円とする
- ・会費納入規程のみ、終身会員（4月1日現在、70歳以上で理事会の承認を得た者）の会費は0円とする に改訂する。(遊佐事務局長) 対象者は年度末の理事会で承認して、次年度4月1日から執行する。会費納入規程の改訂は承認された。

○会費未納の債権回収業務の委託について

JARTと都道府県との合算請求を行っているが、債権回収業務をJARTへ委託する事について電磁的には承認されていた。来年度よ

り債権回収を開始する事を改めて承認された。

⑥ 報告他

- ・なし

① 1) 日放技理事会関連

○令和3年度地域委員会(全国地域連絡協議会) 令和4年1月22日web開催

- ・告示研修の報告があった。
- ・e-ラーニングの構築を進めている。
- ・第37回日本診療放射線技師学術大会がハイブリットで開催された。
- ・告示研修についてJARTのHPに特設サイトを設けてあるので最新の情報を把握するように。
- ・2015年の統一講習会を受講しないで告示研修を受講した場合、後々問題になるのではないか。「診療放射線技師法 第4条 二 診療放射線技師の業務に関して犯罪又は不正の行為があつた者」に該当する可能性がある。
- ・「CVからの造影は可能か。」と質問したところ、「告示研修は抹消からの造影を前提としているので不可である。」と回答を得た。
- ・来年度の講師は日本医学放射線学会 (JRS) と協議をして派遣する。
- ・予算案について次年度の予算案は理事会で承認、総会で報告するという形で定款改訂を検討している。

(参照)公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律

(会計監査人の権限等)

第二十三条 公益法人の会計監査人は、一般社団・財団法人法第百七条第一項（一般社団・財団法人法第百九十七条において準用する場合を含む。）の規定によるもののほか、財産目録その他の内閣府令で定める書類を監査する。この場合において、会計監査人は、会計監査報告に当該監査の結果を併せて記載し、又は記録しなければならない。

- ・日本放射線技術学会との合同学術大会は、2024年度秋季に沖縄での開催を検討。それ以降は未定。
- ・債権回収業務委託と請求業務委託をJRATが行っている。県の会費の回収業務委託も

JRATに依頼している。(鈴木副会長)

2) 東北地域放射線関連

- ・第11回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2021)の報告をした。

監査報告も無事終了。ハイブリット形式では従来の予算配分の見直しを検討し、今後の開催に役立てる。

- ・学術奨励賞の報告があった。
- ・WAT (Webinar Associate Teams) 委員会の報告があった。

- ・東北地域理事役員改選について
東北地域理事の候補者に新里昌一福島県会長が選任された。佐藤晴美山形県会長が全国理事に立候補することとなった。(新里会長)

② 告示研修(義務)について

- ・日本診療放射線技師会(JART)が日本医学放射線学会(JRS)に医師の派遣を依頼することになった。その他告示研修についてJRATに対する、各県様々な意見が上がった。(新里会長)

- ・告示研修の日程について

- ・2022年度

県北、5月末から6月の土日に開催予定。会津、7月から8月の土日に開催予定。浜通、11月後半から12月の土日に開催予定。県南、11月から12月初旬の土日に開催予定。

- ・2023年度は4回以上5回、6回開催もあり得

る。

「今回中止になった2月に申し込んだ人は、次年度優先的に予約可能か。」の問いに、「JRATに申し込むので、それはない。」との回答。

- ・医師はJRSが派遣、看護師は県で依頼する。
- ・予算はファントムや物品を輸送する送料のみ。(堀江理事)

③TCRT2021の会計監査

- ・特に指摘なし。(新里会長)

④来年度定時総会について

- ・会津地区担当、書面決議で行う。(鈴木副会長)

⑤事務所の整備状況

- ・事務員を雇用するにあたって、机等備品の購入を来年度予算から購入したい。
- ・新しい事務員と3月4日に面接をして、採用を決める。
- ・コロナ明けには研修会等いろいろと利用していく。(新里会長)

⑥その他

- ・来年度予算案を早急に作成して、メールにて提示し承認してもらう。
次年度予算案で事業費を増やしたいので、採用案があれば教えてほしい。(新里会長)

以上

令和3年度 会務報告

月 日	活 動 内 容 等	開 催 場 所
R 3 年 4 月 2 日	第35回 いわき地区画像研究会	WEB
4 月 9 日	T O K Y O EB-MRI Online Seminar前編	WEB ZOOM
4 月16日～18日	技術学会第77回総会学術大会	
4 月21日	浜通り地区協議会全大会	WEB
4 月21日	令和2年度 浜通り地区協議会全体会 書面表決結果	Web開催
4 月23日	県北全体会	Web開催
4 月28日	第3回 福島救急画像診断研究会	
5 月20日	浜通り地区協議会令和3年度第1回委員会	Web開催
5 月29日	新任理事による理事会	Web開催
6 月 4 日	FANTA 世話人会	Web開催
6 月12日	第3回福島県CTテクニカルセミナー	Web開催
6 月17日	TCRT2021企画委員会キックオフミーティング	Web開催
6 月24日	第2回浜通り地区協議会委員会	
6 月25日	The36th MICS	Web開催
6 月28日	令和3年度第1回学術委員会	Web開催
6 月28日	告示研修のファシリテータ養成の説明会	Web開催
6 月30日	R 3 第1回県南地区協議会	Web開催
7 月 6 日	第1回執行委員会	
7 月13日	スマホ会議	Web開催
7 月15日	第1回原子力防災通信訓練	
7 月16日	第2回理事会	Web開催
7 月20日	会津地区協議会	Web開催
7 月29日	第3回浜通り地区協議会委員会	Web開催
8 月 3 日	県北夏季勉強会リハーサル	Web開催
8 月 7 日	第20回福島県MRI技術研究会	Web開催
8 月18日	県南地区テスト	Web開催
8 月19日	令和3年度浜通り地区協議会学術大会 リハーサル&接続確認	Web開催
8 月21日	県南地区協議会サマーセミナー	Web開催
8 月26日	令和3年度浜通り地区協議会 学術大会	Web開催
8 月28日	県北夏季勉強会	Web開催
9 月 4 日	第20回福島県乳腺画像研究会	
9 月17日	第3回理事会	Web開催
9 月23日	令和3年度「甲状腺簡易測定研修(福島県立医科大学)」	福島県立医科大学
9 月25日	第21回県北MDCTカンファレンスWeb開催	Web開催
9 月28日	令和3年度第2回会津地区協議会	Web開催
10 月 2 日	JSCT2021日本CT技術学会第9回学術大会	Web開催

10月5日	【開催方法】Web開催	Web開催
10月17日	診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー	Web開催
10月24日	ピンクリボン 乳がん啓発キャンペーン2021 in 郡山	
10月28日～29日	メディカルクリエーションふくしま2021web	Web開催
10月29日	TCRT2021 大会運営会議	Web開催
10月30日～31日	第11回東北放射線医療技術学術大会 (TCRT2021)	Web ハイブリッド開催
11月12日～13日	The12th 会津心臓病・心血管疾患研究会	Web開催
11月12日～14日	第37回日本放射線技師会学術大会	Web ハイブリッド開催
11月17日	第26回 画像診断セミナー	Web開催
11月20日	7thFANTA	Web開催
11月25日	第103回 会津画像研究会	Web開催
12月1日	第2回県南地区協議会	Web開催
12月10日	第4回理事会	Web開催
12月14日	会津乳房撮影研究会 事前打ち合わせ	Web開催
12月21日	会津乳房撮影研究会	Web開催
12月28日	FANTA打ち合わせ会議	Web開催
R4年1月13日	TCRT2021 会計監査	
1月14日	第28回福島県画像技術研究会	Web開催
1月22日	県北新年勉強会	Web開催
1月29日	令和3年度県南地区新年勉強会	Web開催
2月5日	成人病健診従事者講習会、消化器研究会	

令和3年度 役員名簿

役職名	氏名	地区	委員会	勤務先
会長	新里昌一	県南	総務企画委員長・表彰委員長	太田西ノ内病院
副会長	鈴木雅博	会津	総務企画副委員長・表彰副委員長	竹田総合病院
副会長	阿部郁明	県北	財務委員長	福島県立医科大学附属病院
副会長	佐藤龍一	浜通	広報編集副委員長・調査副委員長	いわき市医療センター
常任理事	堀江常満	県北	生涯教育委員長	大原総合病院
常任理事	石森光一	県南	ネットワーク委員長	白河厚生総合病院
理事	池田正光	県北	生涯教育副委員長	福島県立医科大学附属病院
理事	佐藤佳晴	県北	調査委員長	公立藤田総合病院
理事	鍵谷勝	県南	広報編集委員長	総合南東北病院
理事	菅野修一	県南	災害対策委員長	都路診療所
理事	濱端孝彦	県南	精度管理副委員長	坪井病院
理事	森谷辰裕	会津	精度管理委員長	会津中央病院
理事	松井大樹	県北	学術委員長	北福島医療センター
理事	名城敦	浜通	学術副委員長	いわき市医療センター
理事	渡部仁	会津	調査副委員長	会津医療センター
理事	布川真理子	浜通	広報編集委員	渡辺病院
監事	齋藤康雄	県北		
監事	高橋宏和	外部		
事務局長	遊佐烈	県北	総務企画委員・表彰委員・財務委員	福島県立医科大学附属病院
事務員	本田清子	県北	総務企画委員・表彰委員・財務委員	福島県立医科大学附属病院
事務員	笹川克博	県南	総務企画委員・表彰委員・財務委員	太田西ノ内病院
顧問	伊藤陸郎	県北		
顧問	片倉俊彦	県北		

令和3年度 委員会名簿

●総務企画委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	新里昌一	県南	太田西ノ内病院	委員	名城敦	浜通	いわき市医療センター
副委員長	鈴木雅博	会津	竹田総合病院	委員	遊佐烈	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	阿部郁明	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	本田清子	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	池田正光	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	笹川克博	県南	太田西ノ内病院
委員	佐藤龍一	浜通	いわき市医療センター	委員	久保均	県北	福島県立医科大学保健学科
委員	鍵谷勝	県南	総合南東北病院	委員	齋藤康雄	県南	

●表彰委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院	委員	名城 敦	浜通	いわき市医療センター
副委員長	鈴木 雅博	会津	竹田総合病院	委員	遊佐 烈	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	阿部 郁明	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	本田 清子	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	池田 正光	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	笹川 克博	県南	太田西ノ内病院
委員	佐藤 龍一	浜通	いわき市医療センター	委員	久保 均	県北	福島県立医科大学保健学科
委員	鍵谷 勝	県南	総合南東北病院	委員	齋藤 康雄	県南	

●広報編集委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	鍵谷 勝	県南	総合南東北病院	委員	布川真理子	浜通	渡辺病院
副委員長	佐藤 龍一	浜通	いわき市医療センター	委員	大井 和広	浜通	小野田病院
委員	安藤 智則	県北	大原総合病院	委員	菅原 正志	浜通	福島労災病院
委員	小池 沙織	県北	北福島医療センター	委員	元木 弘之	県南	太田熱海病院
委員	風間 顕成	会津	坂下厚生総合病院	委員	国分 美加	県南	総合南東北病院
委員	平澤 康浩	会津	有隣病院				

●調査委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	佐藤 佳晴	県北	公立藤田総合病院	委員	加藤 裕之	会津	竹田総合病院
副委員長	佐藤 龍一	浜通	いわき市医療センター	委員	鈴木 規芳	浜通	
副委員長	渡部 仁	会津	会津医療センター	委員	鍵谷 勝	県南	総合南東北病院
委員	斎藤 聖二	県北	須川診療所	委員	関根 康孝	県南	太田熱海病院
委員	小野 祐一	県北	野田循環器・消化器 内科外科クリニック	委員	吉田 龍太	県南	塙厚生病院
委員	遠山 和幸	会津	南会津病院				

●学術委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	松井 大樹	県北	北福島医療センター	委員	小沼慎一郎	会津	会津中央病院
副委員長	名城 敦	浜通	いわき市医療センター	委員	栗田準一郎	会津	竹田総合病院
委員	三浦 勉	県北	二本松病院	委員	新妻 知之	浜通	かしま病院
委員	相澤 浩樹	県北	福島赤十字病院	委員	細谷 克幸	県南	公立岩瀬病院
委員	鈴木 雅博	会津	竹田総合病院	委員	村山 滉治	県南	白河厚生総合病院

●財務委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	阿部 郁明	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	伊藤 敬	県南	寿泉堂総合病院
委員	宮岡 裕一	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	遊佐 烈	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	井上 基規	会津	竹田総合病院	委員	本田 清子	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	高橋 誠	浜通	いわき市医療センター	委員	笹川 克博	県南	太田西ノ内病院

●災害対策委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	菅野 修一	県南	都路診療所	委員	鈴木 雅博	会津	竹田総合病院
副委員長	佐久間守雄	県南	星総合病院	委員	久米本祐樹	浜通	南相馬市立総合病院
委員	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院	委員	池田 正光	県北	福島県立医科大学附属病院

●精度管理委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	森谷 辰裕	会津	会津中央病院	委員	皆川 貴裕	会津	竹田総合病院
副委員長	濱端 孝彦	県南	坪井病院	委員	鈴木 敬一	浜通	公立相馬総合病院
委員	佐藤 勝正	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	高橋 豊和	浜通	常磐病院
委員	佐藤 真司	県北	栴記念病院	委員	篠原 宏幸	県南	土屋病院
委員	白岩 大輔	会津	会津中央病院	委員	山内 康彦	県南	須賀川病院

●生涯教育委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	堀江 常満	県北	大原総合病院	委員	吉田 賢	会津	会津医療センター
副委員長	池田 正光	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	金田 智樹	会津	竹田総合病院
委員	佐藤 勝行	県北	福島赤十字病院	委員	折笠 秀樹	浜通	いわき市医療センター
委員	橋本 浩二	県北	大原総合病院	委員	濱端 孝彦	県南	坪井病院
委員	樵 勝幸	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	大原 亮平	県南	太田西ノ内病院
委員	鈴木 雅博	会津	福島赤十字病院	委員	久保 均	県北	福島県立医科大学保健学科

●ネットワーク委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	石森 光一	県南	白河厚生総合病院	委員	小柴 祐介	会津	竹田総合病院
副委員長	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院	委員	荒井 孝嗣	浜通	鹿島厚生病院
委員	渡辺 進	県北	わたり病院	委員	三瓶 孝	県南	総合南東北病院

令和3年度 新入会・再入会会員名簿

2022年2月現在

【日本診療放射線技師会会員（福島県診療放射線技師会含む）】

氏名	施設名
小豆畑美雪	福島県立医科大学附属病院
大島 花月	会津中央病院
小澤 航也	会津医療センター
水沼 響	個人
三輪 建太	福島県立医科大学保健科学部
佐藤 佑樹	福島県立医科大学附属病院
高島 和也	桑野協立病院
阿部 沙紀	福島第一病院
芳賀 美祐	個人
森合 玲央	枡記念病院
津久井勝也	白河病院
三浦 夏美	大原総合病院
渡辺 陸	竹田総合病院
木幡 拓海	南相馬市立総合病院
多賀 龍星	かしま病院
坂内 遥哉	会津医療センター
橋本 渚生	福島第一病院

【福島県診療放射線技師会】

氏名	施設名
秋田 貴宏	いわき市医療センター
木村恵美莉	個人
皆川 凌	かしま病院

公益社団法人 福島県診療放射線技師会 名誉会員名簿（敬称略）

会津地区 中 丸 俊 一
馬 場 栄 二

県南地区 吉 田 豊
富 塚 光 夫
山 村 稔
齋 藤 康 雄

県北地区 伊 藤 陸 郎
片 倉 俊 彦

浜通地区 持 館 博 志
佐 藤 知 好
皆 川 信

令和4年1月現在

令和3年度 会員異動名簿

【異 動】	旧	新
白岩 武	福島県保健衛生協会会津地区センター	福島県保健衛生協会相双地区センター
佐藤 祐二	白河厚生総合病院	塙厚生病院
山内 美子	白河厚生総合病院	塙厚生病院
本田 智久	福島県ふたば医療センター附属病院	福島県総合療育センター
加藤 貴弘	福島県立医科大学附属病院 新医療系学部設置準備室	福島県立医科大学保健科学部 診療放射線科学科
山尾 天翔	福島県立医科大学附属病院 新医療系学部設置準備室	福島県立医科大学保健科学部 診療放射線科学科
久保 均	福島県立医科大学附属病院 新医療系学部設置準備室	福島県立医科大学保健科学部 診療放射線科学科
田代 雅実	福島県立医科大学附属病院 新医療系学部設置準備室	福島県立医科大学保健科学部 診療放射線科学科
高橋 規之	福島県立医科大学附属病院 新医療系学部設置準備室	福島県立医科大学保健科学部 診療放射線科学科
福田 篤志	福島県立医科大学附属病院 新医療系学部設置準備室	福島県立医科大学保健科学部 診療放射線科学科
風間 顕成	高田厚生病院	坂下厚生総合病院
松本 智憲	せのうえ健康クリニック	上松川診療所
関根 努	上松川診療所	せのうえ健康クリニック
石川 千尋	塙厚生病院	白河厚生総合病院
鈴木 寿枝	土屋病院	郡山市医療介護病院
志賀凜太郎	磐城中央病院	常磐病院
渡辺 道治	柘記念病院	もとみや整形外科クリニック
関根 紘樹	池田記念病院	福島県労働保健センター
庄司 博樹	磐城中央病院	櫛田病院
佐藤(水野)由美	安積保養園付属あさかホスピタル	個人
佐藤 勝美	福島県立医科大学附属病院	個人
奈良坂真弘	猪苗代病院	個人
草野 義直	いわき市医療センター	個人
亀山 欣之	福島県保健衛生協会	個人
阿部 紀子	ながおさ整形外科	上松川診療所
星 大地	済生会福島総合病院	福島県立南会津病院
高木 理子	上松川診療所	須川診療所

【退 会】

半澤 俊和
 服部 正人
 宍戸 聡美
 上石 信一
 根本 道雄
 秋山 淳一
 斎藤 弘樹
 堀川 博充
 本田 正治
 羽貝 寿子
 福島 康雄
 山田 蓉有加
 遠藤 潤
 幕田 節男
 北島 潔
 安藤 貴正
 林王 明美
 橋本 元秀

勤務先

福島県保健衛生協会
 二本松病院
 総合病院福島赤十字病院
 福島県保健衛生協会
 個人
 個人
 星総合病院
 大町病院
 福島県保健衛生協会県南地区センター
 総合病院福島赤十字病院
 枡病院
 個人（枡記念病院）
 福島県保健衛生協会
 塙厚生病院
 白河厚生総合病院
 須賀川病院
 福島県保健衛生協会
 福島県保健衛生協会県南地区センター

【転 入】

林 美智子
 五月女康作
 小濱 大
 山品 博子

勤務先

福島労災病院
 福島県立医科大学保健科学部
 枡記念病院
 福島県立医科大学保健科学部

【転 出】

廣木 一弘
 佐藤 奈月
 中條 柚香
 鈴木 麻美
 今野 清志
 中田 千草

勤務先

常磐病院
 渡辺病院
 大原総合病院
 いわき市医療センター
 福島労災病院
 常磐病院

【再入会】

なし

【死 亡】

遠藤 俊夫
 坂寄 智広

勤務先

個人
 個人

新人・新入会員紹介

①氏名 ②勤務先 ③出身校 ④卒業年月日 ⑤趣味 ⑥抱負

①三浦 夏美

②大原総合病院

③駒澤大学

④令和3年3月

⑤映画鑑賞（ホラー）

⑥患者様が安心して検査を受けられる技師を目指し、尽力いたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。



①三輪 建太

②福島県立医科大学保健科学部

③北里大学

④平成18年3月

⑤映画鑑賞、日本酒、旅行

⑥福島県の医療に貢献できるように頑張ります！



①阿部 沙紀

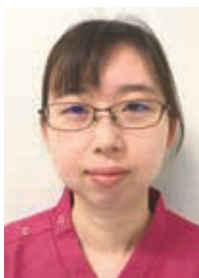
②福島県保健衛生協会

③東洋公衆衛生学院

④令和3年3月

⑤読書

⑥地域の予防医療に貢献できるよう、日々知識と技術の向上に努めてまいりたいと思います。



①佐藤 佑樹

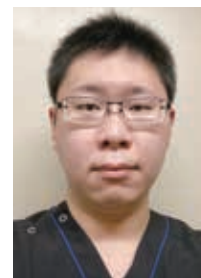
②福島県立医科大学附属病院

③日本医療福祉大学

④平成29年3月

⑤スキューバダイビング・食べ歩き

⑥福島の医療の担い手としての役目を果たせるよう、日々努力を重ねていきたいです。



①小豆畑美雪

②福島県立医科大学附属病院

③国際医療福祉大学

④令和2年3月

⑤映画・アニメ鑑賞、温泉巡り

⑥幅広い業務に積極的に取り組み、その知識と技術を身に着けていくとともに人間性も磨いていきたいです。



①橋本 渚生

②福島第一病院

③つくば国際大学

④令和2年3月

⑤ドライブ、映画鑑賞

⑥技師として技術、知識の向上に努めるとともに、患者さんの事を考えた検査ができるよう頑張ります。



- ①森合 玲央
- ②杵記念病院
- ③中央医療技術専門学校
- ④令和2年3月
- ⑤料理、読書
- ⑥早期発見、早期救命への手助けになる画像作成、検査に努めていきたいとかがえています。



- ①大島 花月
- ②会津中央病院
- ③日本医療科学大学
- ④令和2年3月
- ⑤映画鑑賞
- ⑥幅広いモダリティで活躍できる技師を目指し研鑽を積んでまいります。よろしくお願い致します。



- ①坂内 遥哉
- ②福島県立医科大学 会津医療センター
- ③新潟大学
- ④令和3年3月
- ⑤作曲、イラスト制作
- ⑥診療放射線技師としての業務をしっかりとこなせるよう、日々勉強と実践を大事にしていきたいです。



- ①渡辺 陸
- ②竹田総合病院
- ③日本医療科学大学
- ④令和3年3月
- ⑤サッカー観戦、散歩
- ⑥患者さんや医療従事者から信頼される技師になれるよう日々精進いたします。よろしくお願いいたします。



- ①小澤 航也
- ②福島県立医科大学 会津医療センター
- ③新潟大学
- ④令和2年3月
- ⑤ジムで運動すること
- ⑥ジムで培った体力と筋力を存分に生かして、全力で仕事に取り組みたいです。



- ①秋田 貴宏
- ②いわき市医療センター
- ③国際医療福祉大学
- ④平成28年
- ⑤筋トレ
- ⑥日々の業務は勿論、認定資格の取得にも励みたいと思います。



①多賀 龍星

②かしま病院

③つくば国際大学

④平成31年3月

⑤ゴルフ、スノーボード

⑥実際に働き知識不足だと感じました。信頼される放射線技師になれるよう勉強に努めていきたいと思えます。



①皆川 凌

②かしま病院

③国際医療福祉大学

④平成29年3月

⑤ゴルフ、プロ野球

⑥今年で技師歴5年目になります。入会が遅くなってしまいましたが、より知識を深めて技師としてスキルアップしていきたいと考えています。よろしくお願いします。



①津久井勝也

②白河病院

③国際医療福祉大学

④2017年

⑤運動

⑥初心を忘れずに患者様の気持ちを汲み取って業務に取り組んでいきたいです。

お詫びとお知らせ

福島県放射線技師会 会報（第57号：2021年）の表彰令和2年度受賞者名簿のなかで受賞された方の氏名の掲載が漏れていることがわかりました。受賞された皆様に対し、謹んでお詫び申し上げます。今後このようなことのないよう編集委員一同編集・校正に努めてまいります。

令和2年度受賞者名簿

●叙勲 瑞宝双光章（令和2年度）

伊藤 陸郎 福島県放射線技師会 顧問 佐藤 政春 三春町立三春病院

●公益社団法人日本診療放射線技師会 永年勤続（50年）

《県北地区》

片倉 俊彦 B. B. M. I. L

《県南地区》

音高 正明

●公益社団法人日本診療放射線技師会 永年勤続（30年）

《県北地区》

渡辺 進 医療生協 わたり病院

服部 正人 【JCHO】二本松病院

菅野 徹 福島赤十字病院

阿部 郁明 福島県立医科大学附属病院

清野 真也 福島県立医科大学附属病院

久保 均 福島県立医科大学附属病院 新医療系学部

《県南地区》

緑川 善雄 寿泉堂総合病院

車田 清春 公立岩瀬病院

《浜通地区》

折笠 秀樹 いわき市医療センター

名城 敦 いわき市医療センター

八巻 功一 いわき健康管理センター

●公益社団法人福島県診療放射線技師会 永年勤続（20年）

《県北地区》

佐藤 喜栄	あずま脳神経外科病院	斎藤 久美	北福島医療センター
松井 大樹	北福島医療センター	岡 善隆	福島県立医科大学附属病院
田代 雅実	福島県立医科大学附属病院 新医療系学部	福田 篤志	福島県立医科大学附属病院 新医療系学部

《県南地区》

三瓶 孝	脳神経疾患研究所附属総合南東北病院	石森 光一	白河厚生総合病院
田代 淳子	太田総合病院附属太田熱海病院	柳沼 孝寿	太田総合病院附属太田西ノ内病院
塚田 陽子	今泉西病院	笹川 克博	太田総合病院附属太田西ノ内病院
国分 信行	須賀川病院	大原 亮平	太田総合病院附属太田西ノ内病院
水野 由美	安積保養園付属あさかホスピタル		

《会津地区》

長谷川和己	福島県立医科大学会津医療センター
-------	------------------

《浜通地区》

藤田 秀明	福島労災病院	安藤 茂樹	常磐病院
-------	--------	-------	------

賛助会員各社 名簿

会社名 郵便番号 住所	電話番号
エーザイ株式会社 郡山コミュニケーションオフィス 〒963-8014 郡山市虎丸町24-8 富士火災郡山ビル5F	024-922-1506
カイゲンファーマ株式会社 新薬部 仙台営業所 〒984-0003 仙台市若林区六丁の目北町16-1	022-288-0097
コニカミノルタジャパン株式会社 東北支店 郡山営業所 〒963-0207 郡山市鳴神2丁目82番2号	024-952-1283
コセキ株式会社 福島営業所 〒960-8204 福島市岡部字東町71-1	024-534-7189
株式会社三陽 〒960-8114 福島市松浪町8-13	024-531-6527
シーメンスヘルスケア株式会社 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1 仙台トラストタワー18階	022-778-0101
株式会社島津製作所 郡山営業所 〒963-8877 郡山市堂前町6-7 郡山フコク生命ビル2F	024-939-3792
富士フイルム富山化学株式会社 〒983-0869 仙台市宮城野区鉄砲町西1-14 富士フイルム仙台ビル	022-256-2283
株式会社千代田テクノ 福島復興支援本部 〒960-8041 福島市大町7-23 朝日生命大町ビル2階	024-526-0902
キヤノンメディカルシステムズ株式会社 福島支店 〒963-8004 郡山市中町1-22 大同生命郡山ビル	024-933-6201
東洋メディック株式会社 仙台支店 〒981-3133 仙台市泉区泉中央3-29-7 ウィング21 3F	022-772-5251
バイエル薬品株式会社 東北営業所 〒963-8001 郡山市大町1-14-1 ジブラルタ生命郡山ビル5階	022-711-2662
日本メジフィジックス株式会社 仙台支店 〒980-1104 仙台市青葉区本町1丁目12-7 三共仙台ビル6F	022-267-7462
富士フイルムヘルスケア株式会社 郡山営業所 〒963-8024 郡山市朝日三丁目2-27 HD朝日ビル1F	024-933-0097
伏見製薬株式会社 仙台連絡所 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-22 宮城野センタービル4F 403	022-295-5668
富士フイルムメディカル株式会社 福島営業所 〒963-8014 郡山市虎丸町2-11 郡山虎丸第一生命ビル2F	024-995-5890
GEヘルスケア・ジャパン株式会社 福島営業所 〒963-8071 郡山市富久山町久保田太郎殿前47 1-A	024-922-6120
株式会社フィリップス・ジャパン 東北ブロック 仙台支店 〒981-3213 仙台市泉区南中山1-28-18 輝ビル3F	022-348-2613
富士製薬工業株式会社 仙台第二営業所 〒983-0036 仙台市宮城野区苦竹二丁目7番20号	022-284-8976
堀井薬品工業株式会社 第一医薬情報部 仙台営業所 〒982-0841 仙台市太白区向山4丁目20-19	022-221-1981
富士フイルム医療ソリューションズ株式会社 〒167-0051 東京都杉並区荻窪4丁目30番16号	03-6383-6280
株式会社アゼモトメディカル 〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町17 ファーストビル6階	03-6271-0830
GEヘルスケアファーマ株式会社 〒107-6113 東京都港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル13階	03-5544-3405

編集後記

とても寒い日が多かった冬もようやく明けて、暖かな穏やかな日が続くようになりました。コロナ禍における活動の制限はあるものの、対策をしながら活動もできるような年になりました。

会報No.58の発行を迎えるにあたり、このような状況が続いている中でも寄稿していただいた皆様には、心より感謝いたします。

2021年度に叙勲を受けられた遊佐烈様、平井和子様のように福島県診療放射線技師会に長きに渡って貢献され、発展、支えてくださった大先輩方からの文章を寄せていただき会報に載せることが出来ましたこと心より御礼申し上げます。毎回先輩方の歴史を感じる事が出来、読ませていただくことが楽しみになっております。

来年度は、情勢に見合った更なる活発な活動を期待します。さらに皆さんの顔を合わせて議論できるような勉強会や研究会ができることを切に願っています。

最後に放技ニュースや会報に携わった広報編集委員の皆様には心より感謝いたします。

今後も、会員の皆様に多くの情報を届けることが出来るように、広報編集委員と共に広報活動に励みたいと思います。 (鍵谷 勝)

【広報編集委員会】

鍵谷 勝	総合南東北病院	佐藤 龍一	いわき市医療センター
安藤 智則	大原総合病院	大井 和広	小野田病院
風間 顕成	高田厚生病院	小池 沙織	北福島医療センター
國分 美加	総合南東北病院	菅原 正志	福島労災病院
布川真理子	渡辺病院	平澤 康浩	有隣病院
元木 弘之	太田熱海病院		

公益社団法人 福島県診療放射線技師会 会報 No.58

発行日 令和4年3月31日
発行者 新里 昌一
発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会
〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1
TEL 024-954-7595
<http://fart.jp/> E-mail:office@fart.jp
印刷所 有限会社 吾妻印刷
〒960-8074 福島市西中央四丁目25
TEL (024)534-0342 FAX (024)536-0158
<http://www.azuma-pg.jp> E-mail:azuma@azuma-pg.jp

